

施策評価シート(対象:R2年度実施施策)

R3年度(2021年度)評価

施策名	幼児期の教育と保育の充実			総合計画コード	211
部名	こども・健康部	主管課名	保育課	主管課部課コード	040350
関連部課名	こども・健康部(こども未来課)				

1. 施策概要

めざす目的成果	保護者の多様なニーズに対応でき、安心して安全な保育園・小規模保育施設・家庭保育室・放課後児童クラブが整備されている。				
施策概要	保育園等や放課後児童クラブについては、必要に応じて施設の増改築や改修をすすめ、適正な運営と維持管理を実施します。				
個別計画 関連計画	計画名称	朝霞市子ども・子育て支援事業計画	計画期間	R 2 年度 ~	R 6 年度
				H 年度 ~	H 年度
				H 年度 ~	H 年度

2. 実施結果

R2年度の 施策の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公設保育園の管理運営(公営10園、民営2園)【分園を含む】</li> <li>・民営保育園・認定こども園への給付費支給(34園)【分園を含む】</li> <li>・小規模保育施設等への給付費支給(25施設)【居宅を含む】</li> <li>・放課後児童クラブの管理運営(指定管理者制度、10施設)</li> <li>・民間放課後児童クラブの運営補助(9施設)</li> <li>・家庭保育室への運営費補助(2施設)</li> <li>・私立幼稚園への就園費等補助(8園)</li> <li>・障害児放課後児童クラブへの運営費補助(1施設)</li> <li>・子育て支援センター(さくら・きたはら)の管理・事業運営</li> <li>・ファミリーサポートセンターの事業運営</li> </ul>					
R2年度の 基本概念(コンセプト)の実施内容	安全・安心なまち	市民が安心して暮らせるための社会保障制度(保育サービス)の適正な運営を実施した。				
	子育てがしやすいまち	待機児童解消のため、認可保育園の整備を図り、保護者には、保育料の負担軽減補助を実施した。				
	つながりのある元気なまち	住み慣れた地域で暮らし続けるため、保育サービスの質の向上に向けて取り組んだ。				
	自然・環境に恵まれたまち	公園等で自然とふれあう機会が作れた。				
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度(2019年度)	R2年度(2020年度)
		6,072,637	6,052,780	6,594,381	7,372,569	8,590,699

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度 (2019年度)	前期基本計画目標 R2年度(2020年度)
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績	実績	実績	実績(見込)
① 保育園等定員数 (説明) 認可保育園・小規模保育施設の定員数	人	2,854	3,162	3,619	3,807	3,807
		2,846	3,163	3,367	3,645	3,861
② 待機児童数 (説明) 保育園等の入園希望があっても入園できなかった児童数(4月1日現在)	人	0	0	0	0	0
		79	114	106	44	68

### 3. 施策の分析

達成度  (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) <input type="radio"/> D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点) <input type="radio"/> B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) <input type="radio"/> E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点) <input checked="" type="radio"/> C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点) (説明) 保育園を2園、小規模保育施設を2施設整備し、88名の定員増を図ったが、引き続き保育需要は高く、保留者数が生じているため、待機児童解消に向けた達成は難しい。 また、放課後児童クラブについては、民間事業者2施設を整備し、96名の定員増を図った。
必要性  (ニーズは今後どう変化するか)	<input checked="" type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある <input type="radio"/> D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある <input type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある <input type="radio"/> E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない (説明) 就学前児童数は、ほぼ横ばい傾向であるが、女性の就労希望が多く、保育ニーズは引き続き高い状況にある。保育園の受け入れ状況は、就学前児童数に対する4割を超えており、今後においても、幼児教育・保育の無償化に伴い、需要は高まることが予想されるため、受け皿を整備する必要がある。 併せて、民間放課後児童クラブについても、施設整備が急務である。
施策を進める上での問題点・課題	(説明) 幼児教育・保育の無償化に伴い、保護者からの多様なニーズに対応するため、保育園・小規模保育施設・放課後児童クラブなど、さまざまな保育サービスの充実を計画的に進めているが、待機児童解消には至っていない。そのため、令和4年度に向けて、保育園、小規模保育施設を整備し、放課後児童クラブについても整備する。また、幼稚園の預かり保育事業の充実を図っていく。

### 4. 今後の展開方針〔部としての判断〕

施策の方向性	[複数選択可] <input checked="" type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 内容の見直し (説明) ・保育園及び放課後児童クラブの待機児童を解消に向けて、第二期子ども・子育て支援事業計画の策定を進めていく。 ・小規模保育施設や幼稚園などの活用を図るとともに、特に、小規模保育施設の連携施設の設定を確立させる。 ・民間放課後児童クラブの整備を進め、保留児童の解消を図る。					
行政と市民の役割分担	<input type="radio"/> I 行政の関与(役割)を拡大 <input checked="" type="radio"/> II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 <input type="radio"/> III 市民の関与(役割)を拡大 (説明) ・待機児童の解消にあたっては、保護者や関係事業者、学識経験者などで構成される、朝霞市子ども・子育て会議での意見を踏まえ、検討をしていく。 ・保育園及び放課後児童クラブの運営については、保護者との懇談会などを通じて意見交換を行い、保護者のニーズに沿った保育サービスの充実を図る必要がある。					
施策を構成する事務事業の次年度の方向性	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	R3に向けた 投入資源の方向性
	1					
	2					
	3					
	4					
	5					
	計(単位:千円)			—	—	—
	<input checked="" type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載					
審議会等の第三者機関の評価(意見)	【朝霞市子ども・子育て会議】令和元年度の実施事業進捗管理を行なった。第2期朝霞市子ども・子育て支援事業計画の策定を行なった。保育園の待機児童対策を始め各課の事業に対して各委員から意見を伺った。また、今年度で第1期計画が終了するので、第2期計画策定に向けて各委員に協力をお願いした。					
部長の意見	保育園や放課後児童クラブなどの保育需要は高く、保育施設等の整備等を進めることで、待機児童や入所保留者の解消に努めている。今後も引き続き、保育の質の確保に留意しながら、待機児童対策を進める必要がある。					

**施策評価シート【別紙】施策を構成する事務事業の次年度の方向性**

施策名	幼児期の教育と保育の充実			総合計画コード	211
部名	こども・健康部	主管課名	保育課	主管課部課コード	040350
関連部課名	こども・健康部(こども未来課)				

	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	R3に向けた 投入資源の方向性
		R1決算	R2決算見込			
	1 保育園運営事業	2,212,864	2,390,950	5	5	現状のまま
	2 保育園施設管理事業	115,891	116,981	5	5	現状のまま
	3 保育園施設改修事業	16,849	7,315	5	5	現状のまま
	4 給食食材放射性物質測定事業	4,395	5,313	5	5	現状のまま
	5 私立保育園就園費等補助事業	4,221	20,439	5	5	現状のまま
	6 子ども・子育て支援事業計画推進事業	6,021	2,849	5	5	現状のまま
	7 放課後児童クラブ運営事業	609,516	741,533	5	5	拡大
	8 放課後児童クラブ施設管理事業	2,212	2,602	5	5	現状のまま
	9 私立幼稚園就園費等助成事業	468,938	759,562	5	5	現状のまま
	10 ファミリーサポートセンター運営事業	6,359	12,094	5	5	現状のまま
	11 子ども・子育て支援事業	3,871,931	4,499,510	5	5	現状のまま
	12 民間社会福祉施設整備費補助事業	31,757	7,757	5	5	現状のまま
	13 家庭保育室支援事業	21,615	23,794	5	5	現状のまま
	14					
	15					
	16					
	17					
	18					
	19					
	20					
	21					
	22					
	23					
	24					
	25					
	26					
	27					
	28					
	29					
	30					
	31					
	32					
	33					
	34					
	35					
	36					
	37					
	38					
	39					
	40					
	41					
	42					
	43					
	44					
	45					
	計 (単位:千円)	7,372,569	8,590,699	—	—	—

施策を  
構成する  
事務事業の  
次年度の  
方向性

## 施策評価シート(対象:R2年度実施施策)

R3年度(2021年度)評価

施策名	子どもたちが健やかに育つ環境づくり			総合計画コード	212
部名	こども・健康部	主管課名	こども未来課	主管課部課コード	040300
関連部課名	こども・健康部:保育課、健康づくり課、生涯学習部:生涯学習・スポーツ課				

### 1. 施策概要

めざす目的成果	子どもの権利が守られ、全ての子どもが安心して健やかに育つまちとなっている。				
施策概要	子どもの権利を尊重し保護していく意識啓発や仕組みづくりにより、児童虐待の防止に努め、関係機関との連携を強化し、要保護児童対策等の推進を図る。また、育成保育や障害児放課後児童クラブなどの充実にも努め、ひとり親家庭に対する経済的支援を行う。さらに、地域の中の子どもの居場所づくりとして、児童館等の充実を図るとともに、子どもが健やかに成長するための様々な活動への支援に努める。				
個別計画 関連計画	計画名称	第2期朝霞市子ども・子育て支援事業計画		R 2 年度 ~	R 6 年度
				H 年度 ~	H 年度
				H 年度 ~	H 年度

### 2. 実施結果

R2年度の 施策の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響により、子育てと仕事を一人で担うひとり親に大きな困難が生じたため、ひとり親世帯臨時特別給付金を児童扶養手当受給者に、また、新型コロナの影響を受け家計が急変したひとり親に、8月、12月にそれぞれ給付金を支給した。(支給延べ件数:1,633件・支給額:9,9590千円)</li> <li>・第2期朝霞市子ども・子育て計画の推進と進捗管理のため、子ども・子育て会議の全体会を年3回開催し、各委員の意見、評価等をいただいた。</li> <li>・子どもの安心な居場所、地域の世代間交流場所となっている、子ども食堂やフードパントリーの活動を支援するため、職員のフードドライブや子どもの貧困対策庁内連絡会議を立ち上げ、今後、各課の連携を密に取ることにした。</li> <li>・新型コロナの拡大により、3月9日からはまさき児童館を休館、4月2日から他の5館も休館(市内で感染事例が発生したため)した。緊急事態宣言の解除を受け、5月26日から6館全て開館した。三密を避け、感染予防対策をしながら段階的に再開している。</li> </ul>					
R2年度の 基本概念(コンセプト)の実施内容	安全・安心なまち	昨年、朝霞地区4市で県に児童相談所設置要望書を提出した結果、令和7年度に朝霞市内に児童相談所が開所することが決定した。				
	子育てがしやすいまち	第2期子ども・子育て支援事業計画を策定するとともに、ひとり親家庭等への経済的支援や障害児放課後児童クラブの充実等に努めた。				
	つながりのある元気なまち	子ども・子育て支援事業計画の推進を図るため、関係機関や団体の代表者、公募市民などを委員とする、子ども・子育て会議を開催し、計画の進捗管理等を行った。				
	自然・環境に恵まれたまち	子ども会連合会と青少年相談員協議会合同で、11月にデイキャンプ体験事業(ゲーム、芋ほり体験、焼き芋試食)を実施し、親子で自然や環境に触れあった。				
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度(2019年度)	R2年度(2020年度)
		447,481	470,282	607,492	919,125	545,024

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度 (2019年度)	前期基本計画目標 R2年度(2020年度)
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績	実績	実績	実績(見込)
① 要保護児童対策地域協議会実務者会議開催回数  (説明)要保護児童の適切な保護や支援のため開催された要保護児童対策地域協議会実務者会議の回数	回	6	6	6	6	6
		6	6	6	6	6
② 児童館来館者数  (説明)児童館を利用した年間総来館者数(保護者を含む)	人	220,000	220,000	22,000	230,000	240,000
		213,205	208,366	206,529	192,056	100,000

### 3. 施策の分析

達成度  (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) <input type="radio"/> D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点) <input type="radio"/> B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) <input type="radio"/> E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点) <input checked="" type="radio"/> C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点)
(説明)	<ul style="list-style-type: none"> <li>要保護児童対策地域協議会実務者会議を年6回開催し、関係機関との情報共有や連携を図るとともに、被虐待児童等の見守りや家庭への適切な支援・サービスを行い、子どもの最善の利益を守りながら、虐待の重篤化を防ぐことができた。今後の児童福祉向上のため、県に要望していた新児童相談所の設置が決定し、令和7年度に朝霞市内に開所されることとなった。</li> <li>新型コロナにより学校が休校、市内に感染が拡大するなどから、児童への感染防止のため、児童館も休館とし来館者数が減少した。ワークキットの配布やホームページでの動画など、子育て家庭に対してできることから取り組むなど、地域の子どもの居場所として市民からは好評を得、一定の成果があった。</li> </ul>
必要性  (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある <input type="radio"/> D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある <input checked="" type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある <input type="radio"/> E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない
(説明)	<ul style="list-style-type: none"> <li>家族形態や児童を取り巻く環境の変化、転入などで、配慮や相談支援等が必要な児童や家庭は増加傾向にあり、子育て支援施策に関する課題やニーズは、今後ますます増大するとともに、複雑・多様化するものと考えられる。</li> <li>児童虐待のリスクを早期に発見・未然に防止するため、妊娠期から出産、子育て期にわたる、様々なニーズに対処するため、母子保健担当や総合的な相談窓口との連携により、切れ目のない包括的な支援の重要性は、ますます高まるものと考えられる。</li> </ul>
施策を進める上での問題点・課題	(説明) <ul style="list-style-type: none"> <li>毎年、市民を対象に子どもの権利の尊重・保護のため意識啓発を図っているが、児童虐待は年々増加傾向にあり、その対応も複雑・困難化するなど苦慮している。</li> <li>子どもの貧困が社会問題となり、生活困窮者やひとり親家庭など、特別な配慮が必要な子どもや家庭への支援が求められている。子ども食堂やフードパントリーの活動は自主的な活動であるが、大変重要な役割を果たしていただいていると考えており、情報交換や側面的支援をどのように、効果的に行うかを検討しながら進めている。</li> </ul>

### 4. 今後の展開方針〔部としての判断〕

施策の方向性	[複数選択可] <input checked="" type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 内容の見直し					
(説明)	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナ感染防止のため、参加型の子育て支援施策は取りにくくなり、子育て情報の提供は、子育て情報誌や広報・ホームページ、メール配信などを効果的に活用することが重要になっている。児童虐待防止のため、子育ての悩み解消を解説したパンフレットを作成、乳幼児健診で配布するなどしている。</li> <li>子どもの貧困対策等を、こども食堂のグループ「あさか地区子ども食doネット」と連携・協力するとともに、子どもの貧困対策庁内連絡会議を設置し、庁内各課と連携しながら検討する場を設けた。</li> </ul>					
行政と市民の役割分担	<input type="radio"/> I 行政の関与(役割)を拡大 <input checked="" type="radio"/> II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 <input type="radio"/> III 市民の関与(役割)を拡大					
(説明)	様々な子育て支援施策の推進や児童虐待を防止するには、行政だけでは限界があるため、市民をはじめ、関係機関や有識者などが関与し、それぞれの立場で、意見や評価をいただくことや、相互に連携してすすめる必要がある。					
施策を構成する事務事業の次年度の方向性	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	R3に向けた 投入資源の方向性
		R1決算	R2決算見込			
	1					
	2					
	3					
	4					
	5					
	計(単位:千円)			—	—	—
	<input checked="" type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載					
審議会等の第三者機関の評価(意見)	<b>【子ども・子育て会議】</b> 子ども・子育て支援事業計画の進捗管理では、令和元年度の各事業に対する取組み状況を報告し、ほとんどの事業において、着実に進捗していることの評価をしていただいた。 <b>【児童館運営審議会】</b> ほんちよう児童館を中高校生世代の利用をPRするため、愛称を中高校生世代の方から募集してみたらいかがか。また、児童館で、学校で学習した内容を掲示発表する場としたり、お祭りを地元町内会などと連携して実施するなど、地域に根差した児童館を進めたらどうか、とのご意見をいただいた。					
部長の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの権利が守られ、すべての子ども、保護者が安心して、健やかに成長するための仕組みづくりや地域における環境づくりを推進するためには、行政と市民、関係機関等との協働が不可欠である。</li> <li>様々な事業を推進する中で、子育て支援に対する市民のニーズや国・県の動向を的確に把握し、効率的・効果的の運用とともに、第三者機関等による進捗管理や評価を通じて、事業内容を見直していく必要がある。</li> <li>朝霞市内に児童相談所が設置されることになり、今後、専門職との連携や研修など、進めやすくなる。</li> </ul>					

**施策評価シート【別紙】施策を構成する事務事業の次年度の方向性**

施策名	子どもたちが健やかに育つ環境づくり		総合計画コード	212	
部名	こども・健康部	主管課名	こども未来課	主管課部課コード	040300
関連部課名	こども・健康部:保育課、健康づくり課、生涯学習部:生涯学習・スポーツ課				

	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	R3に向けた 投入資源の方向性
		R1決算	R2決算見込			
	1 児童相談事業	—	—	5	5	現状のまま
	2 子ども・子育て支援事業計画推進事業	—	—	5	5	現状のまま
	3 ひとり親家庭支援事業	61,936	57,799	5	5	現状のまま
	4 母子施設入所事業	2,327	2,777	5	5	現状のまま
	5 ひとり親家庭生活支援事業	10,008	12,041	5	5	現状のまま
	6 児童扶養手当給付事業	401,149	325,824	5	5	現状のまま
	7 育み支援パーチャルセンター事業(保育園巡回相談事業)	7,757	5,430	4	4	現状のまま
	8 障害児放課後児童クラブ管理運営事業	33,351	39,107	5	5	現状のまま
	9 保育園運営事業	—	—	5	5	現状のまま
	10 育み支援パーチャルセンター事業(幼稚園巡回相談事業)	—	—	4	4	現状のまま
	11 児童館建設事業	402,597	—	5	5	R1で休止・廃止・終了
	12 児童館管理運営事業	—	—	5	5	現状のまま
	13 放課後子ども教室事業	—	—	4	4	現状のまま
	14 青少年健全育成事業	—	—	5	5	現状のまま
	15 ひとり親世帯臨時特別給付金支給事業	—	102,046	5	5	R2で休止・廃止・終了
	16					
	17					
	18					
	19					
	20					
	21					
	22					
	23					
	24					
	25					
	26					
	27					
	28					
	29					
	30					
	31					
	32					
	33					
	34					
	35					
	36					
	37					
	38					
	39					
	40					
	41					
	42					
	43					
	44					
	45					
	計 (単位:千円)	919,125	545,024	—	—	—

施策を  
構成する  
事務事業の  
次年度の  
方向性

施策評価シート(対象:R2年度実施施策)

R3年度(2021年度)評価

施策名	子育て家庭を支えるための環境づくり			総合計画コード	213
部名	こども・健康部	主管課名	こども未来課	主管課部課コード	040300
関連部課名	こども・健康部:保育課、健康づくり課				

1. 施策概要

めざす目的成果	子育てに関する相談を気軽にできるなど、全ての家庭が安心して子育てをすることができるまちとなっている。				
施策概要	全ての家庭が安心して子育てができるように、相談体制の充実のほか、子育て家庭の経済的負担の軽減や子どもの保健の向上と福祉の増進を図るため、こども医療費等の助成を行うとともに、子育て支援センターや児童館など、子育て中の親子の交流の場の充実に努める。また、子どもが犯罪や事故に巻き込まれないよう、安全・安心な環境づくりに努める。				
個別計画 関連計画	計画名称	第2期朝霞市子ども・子育て支援事業計画	計画期間	R 2 年度 ~	R 6 年度
				H 年度 ~	H 年度
				H 年度 ~	H 年度

2. 実施結果

R2年度の 施策の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの成長過程で起こる様々な問題や心配ごとなどの相談を家庭児童相談室で受け付けた。新型コロナのため、例年、児童館や保育園に訪問して相談を受ける機会は取れなかった。(延相談件数:700件)</li> <li>生活の安定と児童の健やかな成長に資するため、児童手当を給付した。(延給付件数:215,620件・給付額:2,248,330千円)</li> <li>子どもの保健の向上と福祉の増進を図るため、こども医療費を支給した。(延支給件数:244,270件・支給額:451,309千円)</li> <li>児童館6館の管理・運営を指定管理者の社会福祉協議会が行った。(延利用者数:100,000人)</li> <li>子育てに関する相談の受付や情報提供を子育て支援センターで行った。(延利用者数:20,099人)</li> </ul>					
R2年度の 基本概念(コンセプト)の実施内容	安全・安心なまち	子どもたちの登下校時などにおける緊急避難先として協力する住宅や事業所等に「青少年を守り育成する家」のシンボルマークを設置し、安心・安全な環境づくりに努めた。				
	子育てがしやすいまち	子育て家庭を支援するため、相談体制の充実のほか、児童手当やこども医療費の支給などを行い、経済的負担の軽減や子どもの保健の向上と福祉の増進を図った。				
	つながりのある元気なまち	児童館は、1回目の緊急事態宣言中は休館し、解除後、三密、時間短縮しながら運営した。10月から徐々に事業を始め、地域や学校等との連携事業は実施できなかった				
	自然・環境に恵まれたまち	豊かな自然や環境にふれあう機会として、みぞぬま児童館恒例の館外事業、「黒目川ハイキング」は、5月に予定していたが延期し、10月に規模を縮小して実施した。				
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度(2019年度)	R2年度(2020年度)
		3,180,034	3,163,598	3,155,166	3,231,803	3,446,767

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度 (2019年度)	前期基本計画目標 R2年度(2020年度)
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績	実績	実績	実績(見込)
① 子育て支援センター利用者数 (説明) 子育て中の親子の交流の場として、各種事業や子育てに関する相談を行っている子育て支援センターの利用者数	人	34,000	34,000	34,000	34,000	34,000
		32,024	33,264	31,981	27,949	20,099
② 家庭児童相談室相談件数 (説明) 家庭児童相談室に寄せられる電話相談延べ件数及び来所相談延べ件数等	件	700	700	700	700	700
		780	711	719	825	700

### 3. 施策の分析

達成度	<input type="radio"/> A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) <input type="radio"/> D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点) <input type="radio"/> B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) <input type="radio"/> E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点) <input checked="" type="radio"/> C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点)
(目標の達成状況はどうか)	(説明) ・子育て支援センターの利用者数は、目標に達してはいないものの、子育て家庭の相談・交流、情報提供等の場として、育児負担や不安の解消が図られ、安心して子育てができる環境づくりの推進に一定の成果があった。 ・家庭児童相談室における相談件数は、緊急事態宣言中は減少したが、解除後は増加するとともに家庭訪問にも同行した。子どもの成長過程で起こる様々な問題や心配事に対し、身近な相談窓口としての機能や役割を果たしている。
必要性	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある <input type="radio"/> D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある <input checked="" type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある <input type="radio"/> E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない
(ニーズは今後どう変化するか)	(説明) ・家族形態や子育て環境の変化、転入などにより、相談相手が身近におらず、育児不安や負担を抱えている子育て家庭も多く、今後も育児や子育てに関する様々な相談は、増加していくことが見込まれる。 ・相談体制の充実や地域における子育て支援策として、子育て支援センターや児童館など、また、今後、「子ども家庭総合支援拠点」の整備など、気軽に集い、利用できる場の提供や事業の充実が必要になる。
施策を進める上での問題点・課題	(説明) ・児童相談の内容は、年々、複雑・多様化、その対応も困難化・長期化しており、児童虐待の防止と重篤化を防ぐため、専門的かつ継続的な対応や支援体制のさらなる充実が必要である。 ・子ども医療費の支給制度は、子育て支援の重点施策の一つとして位置付け、限られた財源の中で、市が独自に対象要件を定めて実施しているが、その支給額は、年々増加傾向にあり、大きな財政負担となっている。

### 4. 今後の展開方針〔部としての判断〕

施策の方向性	[複数選択可] <input checked="" type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 内容の見直し					
(説明)	・全ての家庭が安心して子育てができるよう、地域における子育て支援策として、引き続き子育て支援センターや児童館など、気軽に集える場を提供するとともに、様々な情報発信や事業を通じ、利用者の増大を図っていく。 ・子ども医療費の支給など、子育て家庭のニーズが高く、経済的支援を行う対象者の多い事業については、財政的な負担の増大も踏まえ、制度を維持する観点から、事業効果を検証する。					
行政と市民の役割分担	<input type="radio"/> I 行政の関与(役割)を拡大 <input checked="" type="radio"/> II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 <input type="radio"/> III 市民の関与(役割)を拡大					
(説明)	・子どもたちが犯罪や事故に巻き込まれないよう、安心・安全な環境づくりを推進するうえで、「青少年を守り育てる家」のシンボルマークの設置など、市民の意識の高揚と関与が必要である。					
施策を構成する事務事業の次年度の方向性	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	R3に向けた 投入資源の方向性
		R1決算	R2決算見込			
	1					
	2					
	3					
	4					
	5					
	計(単位:千円)			—	—	—
	<input checked="" type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載					
審議会等の第三者機関の評価(意見)	<b>【子ども・子育て会議】</b> 子育ての第一義的責任は親にあるとされているが、子どもの健やかな発達と親の育ちをどう両立させていくか。また、自分の子どもが一番で、自分の子ども以外面倒をみない社会になっているので、子どもが健やかに成長することと人が関わりあえるようにするにはどうしたらよいか検討するべき。					
部長の意見	・全ての子育て家庭が、「子育てがしやすいまち」と実感できるよう、引き続き、相談体制の充実や経済的な負担の軽減を図り、子どもの保健の向上と福祉の増進に努める。合わせて地域における子育て支援施設の提供や効果的な活用を踏まえ、多くの市民に利用していただくために、周知の面でさらに工夫する必要がある。また、子どもたちが犯罪や事故に巻き込まれない安心・安全な環境づくりや見守り体制等の充実にも努める。					

**施策評価シート【別紙】施策を構成する事務事業の次年度の方向性**

施策名	子育て家庭を支えるための環境づくり			総合計画コード	213
部名	こども・健康部	主管課名	こども未来課	主管課部課コード	040300
関連部課名	こども・健康部:保育課、健康づくり課				

	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	R3に向けた 投入資源の方向性
		R1決算	R2決算見込			
	1 児童相談事業	42,907	48,688	5	5	現状のまま
	2 子育て情報誌作成事業	754	776	4	4	現状のまま
	3 児童手当給付事業	2,269,203	2,283,804	5	5	現状のまま
	4 こども医療費支給事業	592,400	513,418	5	5	現状のまま
	5 児童館管理運営事業	309,663	294,409	5	5	現状のまま
	6 子育て支援センター運営事業	16,876	28,170	5	5	現状のまま
	7 子ども・子育て支援事業計画推進事業	—	—	5	5	現状のまま
	8 未熟児養育医療給付事業	—	—	5	5	現状のまま
	9 保育園運営事業	—	—	5	5	現状のまま
	10 青少年健全育成事業	—	—	4	4	現状のまま
	11 子育て世帯への臨時特別給付金支給事業	—	186,996	5	5	R2で休止・廃止・終了
	12 あさかスマイルキッズ臨時特別給付金支給事業	—	90,506	5	5	R2で休止・廃止・終了
	13					
	14					
	15					
	16					
	17					
	18					
	19					
	20					
	21					
	22					
	23					
	24					
	25					
	26					
	27					
	28					
	29					
	30					
	31					
	32					
	33					
	34					
	35					
	36					
	37					
	38					
	39					
	40					
	41					
	42					
	43					
	44					
	45					
	計 (単位:千円)	3,231,803	3,446,767	—	—	—

施策を  
構成する  
事務事業の  
次年度の  
方向性

施策評価シート(対象:R2年度実施施策)

R3年度(2021年度)評価

施策名	青少年の健全育成の充実			総合計画コード	214
部名	こども・健康部	主管課名	こども未来課	主管課部課コード	040300
関連部課名	生涯学習部:生涯学習・スポーツ課				

1. 施策概要

めざす目的成果	学校、家庭、青少年の育成に関係する市民団体などの協働による青少年健全育成活動が推進され、青少年が健全に育つまちとなっている。				
施策概要	青少年の健全育成に対する市民の意識啓発を図るほか、関係団体の活動への助成や支援を行い、関係団体、学校、事業者などと連携し、地域全体で青少年健全育成の体制づくりを進めるとともに、青少年の健全育成や自立を困難にしている課題等を把握し、自立への支援や非行防止活動を推進する。				
個別計画関連計画	計画名称	第2期朝霞市子ども・子育て支援事業計画	計画期間	R 2 年度 ~	R 6 年度
		第3次朝霞市生涯学習計画		H 29 年度 ~	R 8 年度
		朝霞市教育振興基本計画		H 25 年度 ~	R 4 年度

2. 実施結果

R2年度の施策の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝霞市青少年育成市民会議、朝霞市子ども会連合会、青少年相談員朝霞市協議会に補助金を交付し各々の団体の活動を支援した。</li> <li>新型コロナの影響により、青少年育成市民会議との共催の諸事業を一部縮小で実施、または中止した。青少年健全育成の集い:7月、作文募集を実施。ふれあい標語の募集・選考、機関紙「ひまわり」の発行(年2回):6月・12月、「地域安全マップ作成指導員養成講座」の実施:1月、「青少年を守り育成する家」の看板の設置の推進は実施した。親子ふれあい映画会:中止、ふれあい体験事業(親子ハイキング):中止、駅頭キャンペーン(2回):7月・12月は中止となった。</li> <li>成人の日に新成人代表の協力を得て、成人式を開催した</li> </ul>					
R2年度の基本概念(コンセプト)の実施内容	安全・安心なまち	青少年の非行を防止し、事件や事故に巻き込まれないよう、青少年の健全育成に対する市民の意識を高めるとともに、地域全体で推進するため、啓発活動等を行った。				
	子育てがしやすいまち	青少年の健全育成を目的とする団体に補助金を交付し、各団体が行う各種事業や活動を通じて、子どもの健やかな成長を図る側面から、子育てへの支援を行った。				
	つながりのある元気なまち	青少年の健全育成を図るため、市民への啓発と、関係団体や学校、事業者等と連携し、地域全体で青少年の非行防止や健全育成の体制づくりを推進した。				
	自然・環境に恵まれたまち	子ども会連合会と青少年相談員協議会合同で、11月にデイキャンプ体験事業(ゲーム、芋ほり体験、焼き芋試食)を実施し、親子で自然や環境に触れあった。				
総コスト(事業費+人件費)	単位:千円(決算)	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度(2019年度)	R2年度(2020年度)
		7,159	8,856	7,215	8,810	8,523

指標名(説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度(2019年度)	前期基本計画目標R2年度(2020年度)
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績	実績	実績	実績(見込)
① 青少年を守り育成する家の数 (説明) 青少年を守り育成する家の趣旨に賛同し、協力する当該年度の住宅・店舗・公共施設登録数	件	540	550	560	570	580
		525	501	499	508	531
② 青少年健全育成啓発キャンペーン参加者数 (説明) 朝霞駅、朝霞台駅、北朝霞駅の各駅頭で行っている青少年健全育成啓発キャンペーン(年2回)の延べ参加者数	人	320	325	330	335	340
		259	346	378	338	未実施

### 3. 施策の分析

達成度  (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) <input type="radio"/> D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点) <input type="radio"/> B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) <input type="radio"/> E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点) <input checked="" type="radio"/> C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点)
必要性  (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある <input type="radio"/> D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある <input checked="" type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある <input type="radio"/> E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない
施策を進める上での問題点・課題	(説明) ・社会状況や家族形態等の変化により、青少年の自立や社会参加がますます困難になり、地域とのつながりの希薄化が懸念されるなど、青少年を取り巻く環境は著しく変化している。 ・スマホの普及により、SNSを介しての犯罪をはじめ、JKビジネスや危険ドラッグ等の薬物使用など、青少年を巻き込んだ事件・事故が顕在化しており、今後も増加することが考えられる。

### 4. 今後の展開方針〔部としての判断〕

施策の方向性	[複数選択可] <input checked="" type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 内容の見直し					
行政と市民の役割分担	<input type="radio"/> I 行政の関与(役割)を拡大 <input checked="" type="radio"/> II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 <input type="radio"/> III 市民の関与(役割)を拡大					
施策を構成する事務事業の次年度の方向性	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	R3に向けた 投入資源の方向性
		R1決算	R2決算見込			
	1 青少年健全育成事業	8,810	8,523	5	5	現状のまま
	2 成人式事業	—	—	5	5	現状のまま
	3					
	4					
	5					
	計(単位:千円)	8,810	8,523	—	—	—
	<input type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載					
審議会等の第三者機関の評価(意見)	特になし					
部長の意見	・情報通信機器の急速な普及、スマホなどの危機を低年齢から所持することが多くなっており、インターネットやスマホを巧みに利用した犯罪、または危険ドラッグ等の薬物使用やJKビジネスなど、青少年を巻き込んだ事件や事故が全国的に広がっている中で、行政が地域や家庭、学校、関係団体などと協働し、青少年が事件の加害者や被害者にならないよう、市民総ぐるみで青少年を守り育てることが重要である。そのため、今目的な青少年問題への市民の関心を高めるため、関係機関や関係団体等と連携しながら、引き続き、青少年の健全育成に関わる啓発活動や情報発信などを行っていく必要がある。					

施策評価シート(対象:R2年度実施施策)

R3年度(2021年度)評価

施策名	健康・生きがいづくりと介護予防の支援			総合計画コード	221
部名	福祉部	主管課名	長寿はつらつ課	主管課部課コード	040200
関連部課名	こども・健康部(健康づくり課)				

1. 施策概要

めざす目的成果	高齢者が地域活動や、様々な社会参加に積極的に取り組み、生きがいを持ち、健康な生活をしている。				
施策概要	第7期計画を評価し、各種調査結果など市民ニーズを踏まえ、第8期高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定を行う。地域包括ケアシステムの深化・推進を目指し、生活支援体制の整備を推進すると共に、在宅医療と介護の連携の具体化を進める。一般介護予防把握事業(高齢者実態調査)から把握した介護予防リスクの高い高齢者への支援、及びコロナ禍での介護予防の重要性を啓発する。 老人クラブの活動を支援することや、高齢者の就業機会の確保を図るために、シルバー人材センターなどへ、補助金を交付する。				
個別計画 関連計画	計画名称	第7期高齢者福祉計画・介護保険事業計画	計画期間	H 30 年度 ~	R 2 年度
				R 年度 ~	R 年度
				H 年度 ~	H 年度

2. 実施結果

R2年度の 施策の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括ケアシステムの深化を目指すため、高齢者福祉計画・介護保険事業計画推進会議を実施し、第8期計画を策定。(高齢者福祉計画及び介護保険事業計画推進会議7回)</li> <li>・生活支援体制整備事業:・第2層協議体学習会28人の参加 ・5か所の第2層協議体の定期開催により、活動団体ガイドブックの作製と、活動団体のリーダーを中心に、「活動団体向けフレイル予防講座」を開催、計64団体、104人参加</li> <li>・在宅医療・介護連携推進事業:[ケアマネジャー向け研修会・多職種合同研修会]計3回延べ118人参加、[在宅医療・介護連携推進事業に係る作業部会]5回開催</li> <li>・一人暮らしなどで地域のつながりも希薄な高齢者に対し、訪問での声掛け支援などに加え、広報や動画配信によりコロナ禍での介護予防活動の啓発を実施。</li> <li>・長寿を祝う会をリモートで開催し、その後、老人福祉センターで、一定期間ビデオ録画の上映を実施。</li> <li>・朝霞地区シルバー人材センターの運営に対し、和光市、志木市と3市により補助を行った。</li> </ul>					
R2年度の 基本概念(コンセプト)の実施内容	安全・安心なまち	地域包括ケアシステムの深化・推進を目指し、生活支援体制及びコロナ禍での見守りを強化した。また、在宅医療・介護連携推進事業の充実を図った。				
	子育てがしやすいまち					
	つながりのある元気なまち	コロナ禍での介護予防を推進し、地域のつながりを絶やさないよう、5圏域毎の住民主体の協議体学習会を行うと共に、コロナ対策を講じた協議体活動を支援した。				
	自然・環境に恵まれたまち	老人クラブ連合会 及び単位老人クラブの補助により支援した。				
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度(2019年度)	R2年度(2020年度)
		129,084	245,035	387,933	362,840	404,730

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度 (2019年度)	前期基本計画目標 R2年度(2020年度)
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績	実績	実績	実績(見込)
① 元気高齢者率 (説明) 第1号被保険者のうち、要支援・要介護認定を受けていない人の割合	%	84	84	83	82	81
		85	84	84	83	83
② (説明)						

### 3. 施策の分析

達成度  (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) <input type="radio"/> D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点) <input type="radio"/> B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) <input type="radio"/> E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点) <input checked="" type="radio"/> C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点)
	(説明) 元気高齢者率については、ほぼ計画どおりであるが、平成29年度より開始しているお互い様の活動である生活支援体制整備事業と、介護予防・日常生活支援総合事業の取り組みの連動により目標値を改善させていくことが重要となっているが、今年度はコロナ禍であり、十分な活動を実施できていない。
必要性  (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある <input type="radio"/> D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある <input checked="" type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある <input type="radio"/> E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない
	(説明) 本市は、今後も高齢者人口の増加が続くことが見込まれている。特に介護が必要な状態となる可能性が高まる75歳以上の後期高齢者人口の増加が見込まれるため、元気高齢者を増やしていくために、生きがい及び健康づくり、介護予防の取り組みは、さらに重要性が増す。さらに、コロナ禍での活動自粛などに伴う健康状態の悪化等の影響も少なからずあるものと、考えられる。
施策を進める上での問題点・課題	(説明) ・健康づくり・生きがいづくり、介護予防の推進のためには、助け合いの生活支援の活動や介護予防の活動など様々な形の社会参加活動を通して取り組むことが重要となっている。 ・生活支援・介護予防の一体的推進を図り、多くの高齢者の社会参加の活動を進めていくために、第2層協議体の活動支援とともに、就労支援活動なども含め関係機関との連携を進める、市全域を対象とした課題を協議し活動の支援を行う、第1層協議体を立ち上げる必要がある。 ・介護予防の推進については、フレイル予防を中心とし、高齢者の保健事業と介護予防の一体的推進などによる予防事業の取り組み強化が重要である。

### 4. 今後の展開方針〔部としての判断〕

施策の方向性	[複数選択可] <input checked="" type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 内容の見直し					
	(説明) 第8期計画の位置付けに基づき、生活支援や介護予防活動などに主体的に取り組む高齢者を増やし高齢者の社会参加の活動から、人と人とのつながることをとおし、生きがいづくり、健康づくりを進め、元気な高齢者を増やしていく。このために、地域住民同士の互助の活動を推進する、第2層協議体の活動を支援するとともに、主体的に地域で様々な社会参加活動をしている団体に対し、介護予防などの活動が強化されるよう、専門人材の派遣や活動場所の確保支援などを関係機関と連携し、展開していく。					
行政と市民の役割分担	<input type="radio"/> I 行政の関与(役割)を拡大 <input type="radio"/> II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 <input checked="" type="radio"/> III 市民の関与(役割)を拡大					
	(説明) 元気な高齢者を増やすために、社会参加の活動をとおり、同じ地域に暮らす住民同士がつながり、互助の活動や介護予防活動が、住民主体で推進がされることが重要であるため、行政は市民と協同し事業展開する中で、市民が主体的に活動できるよう支援する。					
施策を構成する事務事業の次年度の方向性	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	R3に向けた 投入資源の方向性
	1					
	2					
	3					
	4					
	5					
	計(単位:千円)			—	—	—
	<input checked="" type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載					
審議会等の第三者機関の評価(意見)						
部長の意見	高齢者が主体的に健康と生きがいを持った活動ができるよう、介護予防活動などを支援していく。第8期高齢者福祉計画・介護保険事業計画の目標に向かい、着実に取り組みを進めていく。					

**施策評価シート【別紙】施策を構成する事務事業の次年度の方向性**

施策名	健康・生きがいづくりと介護予防の支援		総合計画コード	221	
部名	福祉部	主管課名	長寿はつらつ課	主管課部課コード	040200
関連部課名	こども・健康部(健康づくり課)				

	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	R3に向けた 投入資源の方向性
		R1決算	R2決算見込			
	1 介護予防・生活支援サービス事業	248,949	285,231	5	5	拡大
	2 高齢者福祉計画及び介護保険事業計画推進事業	8,402	6,697	4	4	現状のまま
	3 包括的支援事業	-	-	5	5	拡大
	4 在宅医療・介護連携推進事業	-	-	5	5	拡大
	5 生活支援体制整備事業	-	-	5	5	現状のまま
	6 地域ケア会議運営事業	-	-	5	5	現状のまま
	7 任意事業	-	-	5	5	現状のまま
	8 敬老事業	24,452	28,851	3	3	現状のまま
	9 生きがい活動支援事業	15,080	15,015	4	4	現状のまま
	10 老人福祉センター管理運営事業	47,743	50,722	3	3	現状のまま
	11 シルバー人材センター支援事業	18,214	18,214	3	3	現状のまま
	12 あさか健康プラン21推進事業	-	-	4	4	現状のまま
	13					
	14					
	15					
	16					
	17					
	18					
	19					
	20					
	21					
	22					
	23					
	24					
	25					
	26					
	27					
	28					
	29					
	30					
	31					
	32					
	33					
	34					
	35					
	36					
	37					
	38					
	39					
	40					
	41					
	42					
	43					
	44					
	45					
	計 (単位:千円)	362,840	404,730	—	—	—

施策を  
構成する  
事務事業の  
次年度の  
方向性

施策評価シート(対象:R2年度実施施策)

R3年度(2021年度)評価

施策名	自立のためのサービスの確立			総合計画コード	222
部名	福祉部	主管課名	長寿はつらつ課	主管課部課コード	040200
関連部課名					

1. 施策概要

めざす目的成果	介護保険制度を適切に運用するほか、福祉サービスを活用することにより、高齢者の自立生活が支援されている。				
施策概要	介護保険制度の適切な運営のため、第8期介護保険事業計画を策定し介護保険料の改定を図る。介護保険給付の適正化に努めるとともに相談体制などの充実を図る。在宅介護の充実を図るなど、「地域包括ケア」の実現に向けた取り組みを推進する。高齢者の生活実態を把握し、介護保険外の健康増進、生活支援サービスの充実に努める。				
個別計画 関連計画	計画名称	第7期高齢者福祉計画・介護保険事業計画	計画期間	H 30 年度 ~	R 2 年度
				R 年度 ~	R 年度
				H 年度 ~	H 年度

2. 実施結果

R2年度の 施策の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>低所得者の保険料の軽減措置を、国基準の幅で実施し、保険料の軽減を継続した、第8期介護保険事業計画を策定。</li> <li>要介護認定申請者に対し、適正な認定審査を行い、必要な介護サービスの利用に結びつけた。</li> <li>介護保険給付費の適正な運営を図るために、ケアプラン点検、縦覧点検、介護給付通知など介護給付適正化事業を実施した。</li> <li>介護保険制度では、提供できない移送サービス(登録者347人12月末)、生活支援員派遣事業(利用者14人1月末)を実施した。</li> <li>住民税非課税で高齢福祉年金受給者と住民税非課税世帯の方を対象に介護保険サービスの利用料の一部を補助した。(延べ17,270件に補助 1月末現在)</li> <li>寝たきり等の高齢者に紙おむつの支給を行った。(利用者数 232人 1月末現在)</li> <li>市内5カ所の地域包括支援センターにおいて、高齢者の総合相談などを実施した。(延べ相談件数54,713件 2月末現在)</li> <li>認知症高齢者と地域住民の集いの場であるオレンジカフェや家族介護教室を実施した。(オレンジカフェ:年13回実施 介護家族教室 1クール2回 延べ35人参加)</li> </ul>					
R2年度の 基本概念(コンセプト)の実施内容	安全・安心なまち	介護が必要な高齢者に介護保険のサービスの他に、必要な福祉サービスを提供するとともに、介護給付の適正化を推進した。				
	子育てがしやすいまち					
	つながりのある元気なまち	認知症の本人や家族が地域で孤立することのないよう、オレンジカフェや家族介護教室を行うとともに、地域包括支援センターの総合相談を充実させ、地域とのつながりを進めた。				
	自然・環境に恵まれたまち					
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度(2019年度)	R2年度(2020年度)
		6,210,624	6,358,809	6,445,927	6,970,142	7,377,743

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度 (2019年度)	前期基本計画目標 R2年度(2020年度)
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績	実績	実績	実績(見込)
① 地域包括支援センターの 相談件数 (説明) 地域包括支援センターに相談 に訪れる人の各年の延べ件数	件	39,200	39,400	39,600	39,800	40,000
		42,562	47,432	45,270	47,846	55,000
② (説明)						

### 3. 施策の分析

達成度  (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) <input type="radio"/> D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点) <input type="radio"/> B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) <input type="radio"/> E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点) <input checked="" type="radio"/> C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点)
(説明)	<p>高齢者の身近な地域で、たとえ介護が必要な状態であっても、その方にとって豊かな自立生活を支援し、地域包括ケアを推進するために、適切な介護保険サービスに結びつけるほか、介護保険サービス外の一般福祉サービスの提供や、地域包括支援センターにおける高齢者の総合相談などを実施した。</p>
必要性  (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある <input type="radio"/> D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある <input checked="" type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある <input type="radio"/> E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない
(説明)	<p>今後も、75歳以上の後期高齢者の増加が続き、かつ、一人暮らしなど高齢者のみの世帯の増加も予想され、介護サービスの必要性のみならず、地域における助け合いなど、様々な支援を必要とする高齢者の増加が見込まれる。          そのため、複雑多様化する生活課題を持ちながら、その方らしく、住み慣れた地域で、可能な限り暮らしたいと願う多くの高齢者への対応が求められる。</p>
施策を進める上での問題点・課題	<p>(説明)          ・高齢者の多様なニーズに対し、画一的な基準の介護サービスだけでなく、地域にある様々な資源(住民主体の活動など)への参加の他、助け合いによるサービスの創設など、実態に即した支援の提供が課題である。          また、複雑多様化する高齢者のニーズへ、総合的に支援する地域包括支援センターの機能強化は重要な課題である。          今後も介護給付のサービス利用者の増加が見込まれることで、第8期以降も65歳以上の高齢者が負担する介護保険料の増加が見込まれる。</p>

### 4. 今後の展開方針〔部としての判断〕

施策の方向性	[複数選択可] <input checked="" type="checkbox"/> 重点化 <input checked="" type="checkbox"/> 内容の見直し					
(説明)	<p>地域の実情に応じ、介護認定を受けている方も、受けていない方も、高齢者一人一人が、その方にとって自立した生活となるよう、介護サービスの効果的活用、地域における医療・介護の連携した支援のほか、住民主体の生活支援や介護予防などの様々な地域資源の活用も含む、一体的な支援の提供体制を構築し、いつまでも安心して暮らしていくため地域包括ケアシステムの確立を目指す。          その要となり推進する役割をもつ地域包括支援センターの機能強化を図っていく。</p>					
行政と市民の役割分担	<input type="radio"/> I 行政の関与(役割)を拡大 <input checked="" type="radio"/> II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 <input type="radio"/> III 市民の関与(役割)を拡大					
(説明)	<p>住民が、住み慣れた地域で可能な限り暮らし続けるために、介護が必要な状態となっても、地域生活に必要な支援として、例えばゴミ出しの支援など、その資源の発掘・育成を進めるために、地域住民が主体となる第2層協議体と行政の連携は、ますます重要と考える。          また、在宅医療と介護の連携の具体化に向け、市民ニーズに基づき関係者と連携を図り、事業展開を行う必要がある。</p>					
施策を構成する事務事業の次年度の方向性	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	R3に向けた 投入資源の方向性
		R1決算	R2決算見込			
	1					
	2					
	3					
	4					
	5					
	計(単位:千円)			—	—	—
	<input checked="" type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載					
審議会等の第三者機関の評価(意見)						
部長の意見	<p>第8期計画の位置づけのとおり、地域共生社会の実現を視野にいて、地域包括ケアシステムの確立を目指し、高齢者支援の重要な要である、地域包括支援センターの機能強化をすすめる。          人員体制の強化から始め、圏域を見直し、基幹型地域包括支援センターの設置の検討を行う。          また、介護保険の各種サービスと一般施策も併せて、効果的に高齢者の自立を支援できるよう各種施策を推進する。</p>					

**施策評価シート【別紙】施策を構成する事務事業の次年度の方向性**

施策名	自立のためのサービスの確立		総合計画コード	222	
部名	福祉部	主管課名	長寿はつらつ課	主管課部課コード	040200
関連部課名					

施策を構成する事務事業の次年度の方向性	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	R3に向けた 投入資源の方向性
		R1決算	R2決算見込			
	1 介護認定調査・審査事業	74,124	69,844	4	4	拡大
	2 介護保険制度趣旨普及事業	8,785	3,891	3	4	拡大
	3 介護保険特別会計運用事業	26,836	26,890	3	4	現状のまま
	4 介護保険賦課徴収事業	17,807	14,887	3	4	現状のまま
	5 介護保険料還付事業	5,252	5,715	3	3	現状のまま
	6 包括的支援事業	140,810	145,863	5	5	拡大
	7 在宅医療・介護連携推進事業	8,957	9,220	5	5	拡大
	8 生活支援体制整備事業	27,057	28,837	5	5	現状のまま
	9 地域ケア会議運営事業	6,583	7,982	5	5	現状のまま
	10 任意事業	3,981	10,541	5	5	現状のまま
	11 認知症総合支援事業	810	4,555	5	4	現状のまま
	12 介護予防・生活支援サービス事業	—	—	5	5	拡大
	13 高齢者自立生活支援事業	—	—	4	4	現状のまま
	14 介護保険給付費審査支払事業	5,193	5,909	3	3	拡大
	15 介護保険給付事業	5,966,836	6,357,787	4	4	拡大
	16 高額介護(予防)サービス費給付事業	192,727	216,694	4	4	拡大
	17 特定入所者介護(予防)サービス費給付事業	194,714	211,010	4	4	拡大
	18 介護保険介護度軽快者居宅サービス利用料助成事業	388	465	3	3	現状のまま
	19 介護保険利用者負担軽減対策費補助事業	97,410	101,814	4	3	現状のまま
	20 高齢者家族介護支援事業	12,456	12,555	4	4	現状のまま
	21 高齢者自立生活支援事業	110,564	76,120	4	4	現状のまま
	22 特別養護老人ホーム管理運営事業	68,852	67,164	4	4	現状のまま
	23 安心見守り支援事業	—	—	4	5	現状のまま
	24 養護老人ホーム入所事業	—	—	3	3	現状のまま
	25					
	26					
	27					
	28					
	29					
	30					
	31					
	32					
	33					
	34					
	35					
	36					
	37					
	38					
	39					
	40					
	41					
	42					
	43					
	44					
	45					
	計 (単位:千円)	6,970,142	7,377,743	—	—	—

施策評価シート(対象:R2年度実施施策)

R3年度(2021年度)評価

施策名	安全・安心な生活ができる環境の整備		総合計画コード	223	
部名	福祉部	主管課名	長寿はつらつ課	主管課部課コード	040200
関連部課名	福祉部(福祉相談課)				

1. 施策概要

めざす目的成果	高齢者が住み慣れた地域で、安心して尊厳のある生活を送ることができるようになっている。			
施策概要	高齢者住宅の提供、住宅改善費の助成等を行い、住環境の安定化を図る。 緊急通報システムの活用や民間企業・地域住民との連携により見守り・支えあえる体制づくりを推進する。 認知症施策の推進や成年後見制度の活用を促進するなど、高齢者の権利擁護に努める。			
個別計画 関連計画	計画名称	第7期高齢者福祉計画・介護保険事業計画	計画期間	H 30 年度 ~ R 2 年度
				R 年度 ~ R 年度
				H 年度 ~ H 年度

2. 実施結果

R2年度の 施策の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護保険サービスの上乗せ支援として、高齢者の住環境改善のため、手すりの取付や段差改修を行う場合、改修費用の一部について補助を行った。(44人に補助 12月末現在)</li> <li>住宅に困窮している高齢者に対し高齢者住宅の貸与を行うほか、転居した場合、家賃の一部を助成した。</li> <li>ひとり暮らし等の高齢者に対し、安心見守り及び緊急通報システムの設置を行った(計468台 12月末現在)</li> <li>認知機能の低下などにより判断能力が十分でなく親族の支援が認められない方の権利を守るため、成年後見制度の利用支援として、市長申立てを行った(6件 1月末現在)</li> <li>認知症サポーター養成講座を、依頼のあった団体に対して実施したが、企業や学校などの定期的な開催は、新型コロナウイルス感染症対策のため中止した。</li> <li>認知症予防を含めた、認知症状の状態に応じたケアガイドブックについては、配布先を市内の医療機関などのほかに、了承を得られたショッピングセンターやコンビニエンスストア、金融機関等に範囲を拡大して配置している。</li> </ul>					
R2年度の 基本概念(コンセプト)の実施内容	安全・安心なまち	緊急通報システムなどの設置のほか、配食サービス、乳酸飲料配付サービスを通じ、高齢者の安否確認を行った。				
	子育てがしやすいまち	小学校・中学校・放課後児童クラブで、小中学生向けの認知症サポーター養成講座を実施し、子どもの社会参加を促すことを予定していたが、新型コロナウイルス感染症対策のため中止した。				
	つながりのある元気なまち	徘徊高齢者声かけ訓練を、学生の参加のほか市内企業の代表者の参加を得て市役所で実施し、高齢者と地域とのつながりを支援する予定であったが、新型コロナウイルス感染症対策のため中止した。				
	自然・環境に恵まれたまち					
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度(2019年度)	R2年度(2020年度)
		61,867	60,309	59,400	65,436	61,613

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度 (2019年度)	前期基本計画目標 R2年度(2020年度)
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績	実績	実績	実績(見込)
① 認知症サポーター人数 (説明) 認知症サポーター養成講座を受講し、認知症サポーターとなった人	人	2,300	2,600	2,900	3,200	3,500
		3,294	4,308	5,707	6,799	6,850
② (説明)						

### 3. 施策の分析

達成度  (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) <input type="radio"/> D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点) <input type="radio"/> B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) <input type="radio"/> E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点) <input checked="" type="radio"/> C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点)
(説明)	<p>認知症サポーターの人数については、目標を達成できてはいる。            平成28年度より第一中学校3年生全クラスで、平成29年度からは第十小学校4年生全クラスで、令和元年度は第2小学校4年生全クラスで、実施したことにより、目標を大きく上回るペースでサポーターを養成することができていたが、令和2年度は新型コロナ感染症対策のため、例年並みの成果をあげることができなかった。</p>
必要性  (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある <input type="radio"/> D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある <input checked="" type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある <input type="radio"/> E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない
(説明)	<p>高齢者の増加、特にひとり暮らしや高齢者のみ世帯の増加もあり、見守り事業の需要は拡大すると思われる。さらに、認知症高齢者や、住宅に困窮する高齢者も増加すると見込まれる。            また、コロナ禍で外出機会が減り閉じこもり傾向からくる、孤独死などの影響もあるため、その対応の増加も懸念される。</p>
施策を進める上での問題点・課題	<p>(説明)            地域で、見守りが必要と思われる高齢者については、その方の状況により、見守り支援の方法は異なる            ところであり、見守りシステムを活用している方や、配食サービスなど訪問による見守り支援などの他、            認知症サポーターや、見守り協定締結企業などの見守りと、様々なスタイルの見守り事業が活用されている。            これらの様々な見守り事業については、当市の高齢者の実態に即した効率的・効果的な見守り事業へ見直す必要がある。            さらに、見守り支援などの必要性和併せて避難行動要支援者台帳の登録も推進していく。</p>

### 4. 今後の展開方針〔部としての判断〕

施策の方向性	[複数選択可] <input checked="" type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 内容の見直し					
(説明)	<p>高齢者実態調査を活用して、見守りが必要な高齢者を把握すると共に、具体的な支援へつなげていくよう、仕組みを構築していく。            また、緊急通報のシステムなど機械を活用した見守りと、認知症サポーターや見守り協定締結企業による見守り支援など効果的な機器を活用した見守りシステムと、地域関係者による顔を見ての見守り支援など、行政や地域包括支援センター及び警察などの関係機関とも協議を重ね、高齢者の見守り支援あり方を再構築する。</p>					
行政と市民の役割分担	<input type="radio"/> I 行政の関与(役割)を拡大 <input checked="" type="radio"/> II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 <input type="radio"/> III 市民の関与(役割)を拡大					
(説明)	<p>高齢者が、住み慣れた地域で安心して生活を送るためには、地域の目としての見守り支援と、機器を活用した見守りシステムの展開を、今後も地域と行政が行う事業とが連動して、一体的な見守りネットワークとなるよう構築していくことが重要である。</p>					
施策を構成する事務事業の次年度の方向性	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	R3に向けた 投入資源の方向性
		R1決算	R2決算見込			
	1 安心見守り支援事業	26,752	27,284	4	5	現状のまま
	2 民生委員児童委員活動事業	—	—	5	5	現状のまま
	3 高齢者住宅支援事業	33,755	28,388	4	4	現状のまま
	4 養護老人ホーム等入所事業	4,929	5,941	3	3	現状のまま
	5 高齢者自立生活支援事業	—	—	4	4	現状のまま
	計(単位:千円)	65,436	61,613	—	—	—
	<input type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載					
審議会等の第三者機関の評価(意見)						
部長の意見	<p>第8期計画の位置づけのとおり、様々な見守り事業については、効果的な見守りシステムとなるよう、高齢者の実態に即し見直しを行う。            あわせて、高齢者実態調査を活用し、支援の必要な方を適切に支援できるよう努めていくとともに、避難行動要支援者台帳の個別支援計画の整備もすすめていく。</p>					

施策評価シート(対象:R2年度実施施策)

R3年度(2021年度)評価

施策名	共生社会の実現			総合計画コード	231
部名	福祉部	主管課名	障害福祉課	主管課部課コード	040150
関連部課名	—				

1. 施策概要

めざす目的成果	ノーマライゼーションの理念が普及し、障害及び障害のある人についての理解が促進されると共に、必要に応じて権利擁護に関する制度が活用され障害のある人が地域で安心して生活できるよう、障害のある人もない人も共に暮らしやすいまちになっている。				
施策概要	障害及び障害のある人についての理解を深めるため、広報あさか、市ホームページ、障害者週間などを活用するほか、ふれあいスポーツ大会や障害福祉施設自主製作品展示販売などのイベントにより、障害のある人とない人との交流の機会を広げる。また、障害のある人が、地域で安心して生活できるよう、成年後見制度の活用や差別解消、障害者虐待防止など、権利擁護に関する取り組みを推進する。				
個別計画 関連計画	計画名称	第5次朝霞市障害者プラン	計画期間	H 30 年度 ~	R 5 年度
		第5期朝霞市障害福祉計画		H 30 年度 ~	R 2 年度
				H 年度 ~	H 年度

2. 実施結果

R2年度の 施策の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12月の障害者週間(令和2年12月3日～9日)に、啓発事業(地域活動支援センター「ばれっと」「れすと」「レモンの木」の活動内容の展示)を図書館において実施した。</li> <li>・市民ホールにおいて障害福祉施設自主製作品展示販売会を実施した。(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4月～7月及び1月～2月は中止)</li> <li>・障害者プラン推進委員会を年4回開催した。</li> <li>・障害者自立支援協議会を年1回開催した。また、医療的ケア児に係る専門部会、権利擁護に係る専門部会、地域生活支援拠点に係る専門部会を各1回開催した。</li> <li>・成年後見制度の市長申立てに係る利用手数料の助成及び市長申立てを3件行った。</li> <li>・職員を対象とした障害者差別解消法及び朝霞市日本手話言語条例に係る職員研修を実施した。</li> </ul>					
R2年度の 基本概念(コンセ プト)の実施内容	安全・安心な まち	障害のある人が住み慣れた地域で安心して生活することができるよう、障害福祉サービスや制度に関する周知を行うとともに、市民に対して、障害や障害のある人への理解を促進するための取り組みを行った。				
	子育てが しやすいまち	—				
	つながりのある 元気なまち	スポーツ・レクリエーションの集いやふれあいスポーツ大会等を通して、障害のある人の社会参加を促進するとともに、障害や障害のある人に対する理解の促進が図られた。				
	自然・環境に 恵まれたまち	—				
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度(2019年度)	R2年度(2020年度)
		2,175,199	2,476,494	2,683,721	2,838,985	3,508,273

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度 (2019年度)	前期基本計画目標 R2年度(2020年度)
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績	実績	実績	実績(見込)
① 障害に関する啓発・広報活動件数 (説明) 障害に関する啓発・広報活動として、広報あさかに障害福祉に関する制度やイベント等の情報を掲載した年間の件数	件	55	56	58	58	60
		75	88	85	82	52
② 成年後見制度利用手数料利用件数 (説明) 障害のある人が成年後見制度を利用する際、身寄りがいない場合等に市長が成年後見申立てを行い、手数料を助成した年間の件数	件	2	2	3	3	3
		1	1	2	3	3

### 3. 施策の分析

達成度  (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) <input checked="" type="radio"/> D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点) <input type="radio"/> B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) <input type="radio"/> E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点) <input type="radio"/> C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点)
必要性  (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある <input type="radio"/> D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある <input checked="" type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある <input type="radio"/> E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない
施策を進める上での問題点・課題	(説明) ノーマライゼーションの理念の普及に関しては、広報あさかや市のホームページを活用することだけにとどまらず、より効果的な方法で実施する必要がある。 障害のある人とない人の相互交流を促進するため、各事業の内容を充実させ、更なる参加促進を図る必要がある。 障害者虐待防止センター、障害者差別解消法に係る相談窓口、成年後見市長申立てなど、市が主体となって実施する支援について、更なる周知及び体制整備を行う必要がある。
(目標の達成状況はどうか)	(説明) 障害のある人が安全で安心した生活を送ることのできる地域社会の実現にはノーマライゼーションの理念を広く普及させることが必要であることから、広報あさかや市のホームページを活用し、障害のある人への理解を深めるための周知啓発を行った。なお、今年度については、広報あさかにおいて新型コロナウイルス感染症に関する情報提供が多く、障害福祉サービスに関する情報提供を必要最小限で実施したため、目標を下回る結果となった。 成年後見制度が必要と思われる当事者に対しては適切な情報提供を行うとともに、身寄りのない障害のある人について、市長申立てを行った。

### 4. 今後の展開方針〔部としての判断〕

施策の方向性	〔複数選択可〕 <input checked="" type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 内容の見直し					
行政と市民の役割分担	<input type="radio"/> I 行政の関与(役割)を拡大 <input checked="" type="radio"/> II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 <input type="radio"/> III 市民の関与(役割)を拡大					
(説明)	関係団体や県等の関係機関と連携を図りながら、障害のある人とない人が共に暮らすことのできる地域づくりを目指し、交流を深めることができるよう様々な行事やメディアを通して啓発、広報を実施していく。また、障害のある人の日常生活に直結する福祉タクシー利用券や自動車燃料費補助、紙おむつの支給などについては、社会情勢や他の自治体の動向を注視しながら限られた予算の中で実施していく。					
(説明)	(説明) 障害や障害のある人に関する理解を深めるためには、障害のある人とない人とが触れ合い、様々な場面で共に活動できることが効果的と考えられることから、触れ合える場面を数多く作っていく必要がある。また、関係団体の諸活動を通して、障害のない人に障害のある人への理解が深まるよう周知を行っていく。					
施策を構成する事務事業の次年度の方向性	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	R3に向けた 投入資源の方向性
		R1決算	R2決算見込			
	1					
	2					
	3					
	4					
	5					
	計 (単位:千円)			—	—	—
	<input checked="" type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載					
審議会等の第三者機関の評価(意見)	<b>【障害者プラン推進委員会】</b> 障害のある人の意思決定を支援できる人の育成や体制づくりが今後、重要になると思う。					
部長の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害のある人に対する誤解や偏見等はなくならないと考えられるため、今後においても様々な機会や情報媒体を通じて、社会的障壁を取り除く啓発活動を行っていくこと。</li> <li>・第6期障害福祉計画・第2期障害児福祉計画の進捗管理や評価を適切に行うこと。</li> <li>・スポーツ・レクリエーション事業に関しては、オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として、新たな事業展開を検討すること。</li> </ul>					

**施策評価シート【別紙】施策を構成する事務事業の次年度の方向性**

施策名	共生社会の実現			総合計画コード	231
部名	福祉部	主管課名	障害福祉課	主管課部課コード	040150
関連部課名	-				

	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	R3に向けた 投入資源の方向性
		R1決算	R2決算見込			
	1 障害福祉総務事務事業	25,601	43,915	4	4	現状のまま
	2 障害者プラン・障害福祉計画推進事業	12,983	19,374	4	4	縮小
	3 障害福祉助成事業	58,168	57,996	4	4	現状のまま
	4 障害者スポーツ・レクリエーション事業	4,671	838	4	4	現状のまま
	5 障害者医療・手当給付事業	662,759	656,823	4	4	現状のまま
	6 障害者生活支援事業	2,074,803	2,729,327	4	4	現状のまま
	7					
	8					
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
	16					
	17					
	18					
	19					
	20					
	21					
	22					
	23					
	24					
	25					
	26					
	27					
	28					
	29					
	30					
	31					
	32					
	33					
	34					
	35					
	36					
	37					
	38					
	39					
	40					
	41					
	42					
	43					
	44					
	45					
	計 (単位:千円)	2,838,985	3,508,273	—	—	—

施策を  
構成する  
事務事業の  
次年度の  
方向性

施策評価シート(対象:R2年度実施施策)

R3年度(2021年度)評価

施策名	地域における自立生活支援			総合計画コード	232
部名	福祉部	主管課名	障害福祉課	主管課部課コード	040150
関連部課名	こども・健康部(健康づくり課)、学校教育部(教育指導課)				

1. 施策概要

めざす目的成果	障害のある人に対し、適切な障害福祉サービスや地域生活支援事業の提供、各種補助などの経済的支援を行うほか、ライフステージの各段階に応じた相談や情報提供の充実を図ることにより、障害のある人が地域において自立した生活を営むことができるようになっている。				
施策概要	障害のある人のライフステージに応じた各種相談や情報提供に努め、適切な障害福祉サービスの支給決定や地域生活支援事業の提供、各種補助や手当などの経済的支援を行う。また、意思疎通、意思伝達に支障がある人に対し、手話通訳者等の派遣と養成を行うほか、補装具や日常生活用具の支給、コミュニケーションボード等の活用により、意思疎通の円滑化を図る。				
個別計画 関連計画	計画名称	第5次朝霞市障害者プラン	計画期間	H 30 年度	～ R 5 年度
		第5期朝霞市障害福祉計画		H 30 年度	～ R 2 年度
				H 年度	～ H 年度

2. 実施結果

R2年度の 施策の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定特定相談支援事業所・指定障害児相談支援事業所の変更指定を行った。</li> <li>障害支援区分認定の審査、それに伴う調査を行った。</li> <li>朝霞地区一部組合が運営する障害者支援施設、朝霞地区福祉会が運営する児童発達支援センター、生活介護施設等の運営費の負担を行った。</li> <li>重度心身障害者医療費の給付、特別障害者手当の支給などを行い、障害のある人の経済的負担の軽減を図った。</li> <li>障害福祉団体に補助金を交付することで、活動を支援し、運営の安定を図った。また、障害のある人の経済的負担の軽減を図り、自立を支援するため、自動車運転免許取得費補助、福祉タクシー利用券・バス鉄道共通カード・自動車燃料費の助成等を行った。</li> <li>障害者総合支援法に定める、手話通訳者等の派遣や日常生活用具の給付等の地域生活支援事業を実施した。また、障害福祉サービス等の支給決定及び介護給付・訓練等給付費の支出を行った。</li> </ul>					
R2年度の 基本概念(コンセプト) の実施内容	安全・安心なまち	障害のある人の安心安全な生活を支援するため、各種施策を実施した。				
	子育てがしやすいまち	幼稚園及び小中学校における巡回相談等を実施した。				
	つながりのある元気なまち	障害のある人に対する生活支援及び経済的支援を実施した。				
	自然・環境に恵まれたまち	-				
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度(2019年度)	R2年度(2020年度)
		444,184	470,576	471,868	462,092	487,962

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度 (2019年度)	前期基本計画目標 R2年度(2020年度)
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績	実績	実績	実績(見込)
① 障害福祉サービス等の利用件数 (説明) 障害福祉サービスなどの年間利用件数(のべ)	件	10,100	10,300	10,500	10,700	10,900
		12,661	16,156	16,201	17,279	17,968
② 手話通訳者派遣件数 (説明) 朝霞市社会福祉協議会に委託して実施している手話通訳者派遣事業における手話通訳者の年間派遣件数。	件	530	540	560	580	600
		551	599	546	603	413

### 3. 施策の分析

達成度  (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) <input type="radio"/> D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点) <input checked="" type="radio"/> B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) <input type="radio"/> E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点) <input type="radio"/> C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点)
必要性  (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある <input type="radio"/> D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある <input checked="" type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある <input type="radio"/> E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない
施策を進める上での問題点・課題	<p>(説明)</p> <p>指定特定相談支援事業所数は増加してきたが、相談支援専門員はまだ不足している状況である。指定事業所及び相談支援専門員の増加に向けて各法人に働きかけを行うとともに、既存事業所に対する連絡協議会の開催などにより、質の向上を図る必要がある。また、相談体制の要となる基幹相談支援センターの整備について、検討する必要がある。</p> <p>利用者及び市内の各種事業所が増加する中で、障害特性やライフステージに合わせた適正なサービスが提供されるよう、地域課題を検討する必要がある。</p>

### 4. 今後の展開方針〔部としての判断〕

施策の方向性	[複数選択可] <input checked="" type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 内容の見直し					
行政と市民の役割分担	<input checked="" type="radio"/> I 行政の関与(役割)を拡大 <input type="radio"/> II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 <input type="radio"/> III 市民の関与(役割)を拡大					
施策を構成する事務事業の次年度の方向性	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	R3に向けた 投入資源の方向性
		R1決算	R2決算見込			
	1					
	2					
	3					
	4					
	5					
	計(単位:千円)			—	—	—
	<input checked="" type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載					
審議会等の第三者機関の評価(意見)	<p>【障害者自立支援協議会専門部会】</p> <p>相談やサービスを利用していない方については、日ごろからサービスの利用を勧めたり、アセスメントや社会資源の周知を行ったりするなど、介護者が不在となってケースが孤立することがないよう、普段からの予防策が必要である。</p>					
部長の意見	<p>障害のある人の自己決定権を尊重し、その意思決定の支援を行っていけるよう努め、必要とする障害福祉サービスを提供することで、その自立と社会参加を図っていくこと。</p> <p>併せて、適切なサービス等利用計画に基づいた障害福祉サービス等の支給決定を行い、介護給付・訓練等給付費の適正化を図ること。</p>					

**施策評価シート【別紙】施策を構成する事務事業の次年度の方向性**

施策名	地域における自立生活支援			総合計画コード	232
部名	福祉部	主管課名	障害福祉課	主管課部課コード	040150
関連部課名	こども・健康部(健康づくり課)、学校教育部(教育指導課)				

	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	R3に向けた 投入資源の方向性
		R1決算	R2決算見込			
	1 障害福祉総務事務事業	-	-	4	4	現状のまま
	2 障害福祉助成事業	-	-	4	4	現状のまま
	3 障害者生活支援事業	-	-	4	4	現状のまま
	4 育み支援バーチャルセンター事業(幼稚園巡回相談事業等)	16,346	18,126	4	4	現状のまま
	5 朝霞地区一部事務組合負担事業(障害者支援施設)	19,560	21,423	4	4	現状のまま
	6 朝霞地区福祉会負担事業	16,771	16,500	4	4	現状のまま
	7 障害者施設等運営支援事業	408,639	431,137	4	4	現状のまま
	8 育み支援バーチャルセンター事業(学校巡回相談事業等)	776	776	4	4	現状のまま
	9 母子健康教育事業	-	-	4	4	現状のまま
	10 乳幼児健康診査事業	-	-	4	4	現状のまま
	11 母子訪問指導事業	-	-	4	4	現状のまま
	12					
	13					
	14					
	15					
	16					
	17					
	18					
	19					
	20					
	21					
	22					
	23					
	24					
	25					
	26					
	27					
	28					
	29					
	30					
	31					
	32					
	33					
	34					
	35					
	36					
	37					
	38					
	39					
	40					
	41					
	42					
	43					
	44					
	45					
	計 (単位:千円)	462,092	487,962	—	—	—

施策を  
構成する  
事務事業の  
次年度の  
方向性

# 施策評価シート(対象:R2年度実施施策)

R3年度(2021年度)評価

施策名	自立した社会生活・就労支援			総合計画コード	233
部名	福祉部	主管課名	障害福祉課	主管課部課コード	040150
関連部課名	学校教育部(教育指導課)				

## 1. 施策概要

めざす目的成果	朝霞市障害者就労支援センターやハローワークなどの連携を密にし、障害のある人の就労を促進したり、一般就労が困難な人に対しては、福祉的就労施設(障害者多機能型施設)や日中活動施設(地域活動支援センター)等の充実、情報提供に努める。				
施策概要	就労支援センターやハローワーク、特別支援学校との日頃からの連携や会議への参加等により、障害のある人の一般就労を促進する。一般就労が困難な人が利用する福祉的就労施設である障害者多機能型施設や、日中活動の場である地域活動支援センターを市が指定管理者を指定して運営するほか、日中活動の場としてNPO法人が運営する地域活動支援センターに運営費補助を行う。				
個別計画 関連計画	計画名称	第5次朝霞市障害者プラン	計画期間	H 30 年度 ~	R 5 年度
		第5期朝霞市障害福祉計画		H 30 年度 ~	R 2 年度
				H 年度 ~	H 年度

## 2. 実施結果

R2年度の 施策の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉協議会を指定管理者として、障害福祉サービス事業所2箇所、指定特定相談支援事業所2箇所、障害者就労支援センターを運営し、一般企業での就労が困難な障害のある方に対して就労や生産活動の機会を提供するとともに、常に介護を要する人に対して介護や創作的活動の機会などを提供し、障害福祉サービスの利用に必要なサービス等利用計画を作成を通じて就労支援と生活支援を総合的に行い、一般就労の促進を図りながら自立と社会参加を促進した。</li> <li>・NPO法人が運営する地域活動支援センター3施設に対し運営費補助を行った。</li> <li>・通常学級における特別な支援を必要とする児童生徒に対し、支援員による支援を実施した。</li> </ul>					
R2年度の 基本概念(コンセプト) の実施内容	安全・安心なまち	障害のある人の自立と社会参加を促進するための支援を実施した。				
	子育てがしやすいまち	通常学級における特別な支援を必要とする児童生徒に対し、支援員を小・中学校に派遣して支援を実施した。				
	つながりのある元気なまち	ハローワークなどと連携し、障害のある人の就労支援を実施した。				
	自然・環境に恵まれたまち	-				
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度(2019年度)	R2年度(2020年度)
		0	0	0	0	0

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度 (2019年度)	前期基本計画目標 R2年度(2020年度)
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績	実績	実績	実績(見込)
① 就労支援センターの利用による年間就職者数 <small>(説明) 就労支援センターを利用している障害のある人のうち、就職に至った年間人数。</small>	人	35	30	23	23	23
		32	41	47	41	21
② 障害福祉サービス事業所(市内で市の指定管理により運営する2箇所)の実利用人数 <small>(説明) 障害福祉サービス事業所(市の指定管理により朝霞市社会福祉協議会が運営するはあとびあ及び障害者ふれあいセンター)の実利用人数。</small>	人	110	120	125	130	135
		98	113	116	109	113

### 3. 施策の分析

達成度  (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) <input checked="" type="radio"/> D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点) <input type="radio"/> B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) <input type="radio"/> E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点) <input type="radio"/> C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点) (説明) 就労支援センターの利用による年間就職者数は、新型コロナウイルス感染症の影響による求人の減少や就職活動の自粛に伴い、前年度実績を下回った。なお、法定サービスである就労移行支援事業の利用が進み、就労支援センターを利用せずに、就労移行支援事業所から就職に至る方も増えており、就職者数は減少傾向にある。また、市が実施する障害福祉サービス事業所の実利用人数についても、目標を達成しなかった。これについては、特別支援学校の卒業生等の利用を見込んでいたが、卒業生に市民が少なかったほか、重度の障害者を多く受入れているため、新たな利用者の受入れが難しい場合があることが要因と考えられる。
必要性  (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある <input type="radio"/> D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある <input checked="" type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある <input type="radio"/> E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない (説明) 精神障害のある人が増加していることや、障害者総合支援法、障害者雇用制度の改正等により、障害者就労支援センターによる支援は継続して求められているが、さまざまな就労支援サービスが創設される中で、その役割を検討する必要がある。また、市が実施する障害福祉サービス事業所については、重度の障害のある方が利用できる事業所としてのニーズが引き続き存在している。
施策を進める上での問題点・課題	(説明) 福祉的就労施設や日中活動施設の確保の継続及びこれらの施設の情報を配布物やホームページ等で情報提供するなど、就労支援を充実させる必要がある。就労定着支援など新たな障害福祉サービスが創設され、また、市内に各種就労支援事業所が増加する中で、これらや関係機関と連携を行い、適切な就労支援につなげるため、障害者就労支援センターの役割を見直す必要がある。

### 4. 今後の展開方針〔部としての判断〕

施策の方向性	〔複数選択可〕 <input checked="" type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 内容の見直し (説明) 障害のある人の自立を促すための取り組みとして、国は法令により法定雇用率を設定している。国の今後の法令改正の動向に注視し、さらに障害者就労支援センターは、ハローワークや就労移行支援事業所等の関係機関と連携を促進する必要がある。					
行政と市民の役割分担	<input checked="" type="radio"/> I 行政の関与(役割)を拡大 <input type="radio"/> II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 <input type="radio"/> III 市民の関与(役割)を拡大 (説明) 障害のある人の自立を促すための取り組みとして、国は法定雇用率を設定しているものの障害者理解、障害のある人への配慮等がなされた社会の実現には至っていないことから、市が積極的に障害者理解を促進するための取り組みを実施していく必要がある。					
施策を構成する事務事業の次年度の方向性	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	R3に向けた 投入資源の方向性
	1 障害福祉助成事業	-	-	4	4	現状のまま
	2 障害者生活支援事業	-	-	4	4	現状のまま
	3 障害者施設等運営支援事業	-	-	4	4	現状のまま
	4 特別支援教育事業	-	-	4	5	拡大
	5					
	計(単位:千円)	0	0	—	—	—
	<input type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載					
審議会等の第三者機関の評価(意見)	【外部評価委員会】 心身の障害をお持ちの方への就労支援を充実させてほしい。 【総合計画審議会】 障害のある方の雇用について、一般就労だけではなく、福祉的就労も考えていく必要があるのではないか。					
部長の意見	・指定管理事業に関しては、適切なサービスが提供されるよう、指定管理者への指導に努めること。 ・障害のある人の雇用を促進するため、障害者就労支援センター等において関係機関と密な連携を図り、就労支援を行うこと、また、障害のある人が地域の中で安心して生活を送るために、日中活動の場の充実やコミュニケーション支援の充実に努めること。					

施策評価シート(対象:R2年度実施施策)

R3年度(2021年度)評価

施策名	地域福祉の推進			総合計画コード	241
部名	福祉部	主管課名	福祉相談課	主管課部課コード	040100
関連部課名	福祉部(障害福祉課、長寿はつらつ課)、こども・健康部(保育課)				

1. 施策概要

めざす目的成果	人と人との交流によって、わけ隔てなく必要な福祉サービスを受けながら、市民が地域でともに生きることができるまちづくりが図られる。				
施策概要	地域におけるボランティアの掘りおこしや参加の促進などを支援するほか、様々な地域福祉の担い手の育成やネットワーク化を進める。また、高齢者、障害のある人や子どもにも適正な福祉サービスを提供していく。				
個別計画 関連計画	計画名称	第3期朝霞市地域福祉計画	計画期間	H 28 年度 ~	R 2 年度
				H 年度 ~	H 年度
				H 年度 ~	H 年度

2. 実施結果

R2年度の 施策の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域福祉推進の中心的な役割を担う社会福祉協議会の運営にかかる費用に対し補助金を交付した。</li> <li>・地域福祉の担い手である民生委員児童委員の活動に対し補助金を交付するとともに、各地区民生委員児童委員協議会で事例研究や情報交換を行った。</li> <li>・民間の保育園等の運営改善等を図るため補助金を交付した。</li> <li>・認知症など的高齢者等への適切な対応に向けて、成年後見制度の普及を図るため講座等を開催した。</li> <li>・第4期地域福祉計画を策定するため、市民懇談会やパブリックコメントを実施した。</li> </ul>					
R2年度の 基本概念(コンセプト)の実施内容	安全・安心なまち	地域福祉の担い手である民生委員児童委員の活動に対し、補助金を交付した。				
	子育てがしやすいまち	民間の保育園等の運営改善等を図るため、補助金を交付した。				
	つながりのある元気なまち	地域福祉の振興事業を実施している各種地域団体に対し、事業費の一部を助成した。				
	自然・環境に恵まれたまち	総合福祉センターの屋上に太陽光発電設備を設置し、環境に配慮した。				
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度(2019年度)	R2年度(2020年度)
		303,822	276,896	299,150	307,332	324,736

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度 (2019年度)	前期基本計画目標 R2年度(2020年度)
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績	実績	実績	実績(見込)
① 民生委員・児童委員の活動日数 (説明) 民生委員・児童委員の活動する延べ日数	日	14,400	14,400	14,400	14,400	14,400
		13,360	13,400	12,241	12,856	12,000
② 市民団体への補助金交付件数 (説明) 補助金の交付対象となる地域保健福祉の活動を行う団体数	件	24	24	24	24	24
		20	20	20	21	22

### 3. 施策の分析

達成度  (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) <input type="radio"/> D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点) <input type="radio"/> B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) <input type="radio"/> E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点) <input checked="" type="radio"/> C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点) 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、民生委員児童委員視察研修や一部の地区定例会が中止となったが、活動費を補助することで、福祉活動の助長を図ることができた。 地域で自主的に活動する市民団体へ保健福祉活動事業費を補助することで、地域福祉の推進を図ることができた。
必要性  (ニーズは今後どう変化するか)	<input checked="" type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある <input type="radio"/> D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある <input type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある <input type="radio"/> E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない (説明) 地域福祉を推進する上で、中心的な役割を担っている社会福祉協議会は、市の福祉施設の運営や福祉事業を行うとともに、ボランティア育成など、地域福祉の課題に取り組んでおり、その必要性が高まっている。 民生委員児童委員の活動は、社会情勢の変化や少子高齢化の進展とともに、相談や見守り活動の需要が増えるものと考えられる。 地域福祉を推進していくために、社会福祉事業者や市民団体を支援することが必要である。
施策を進める上での問題点・課題	(説明) すべての人が地域で共に暮らし続けていくために、分野を超えた生活課題に関わる相談を包括的に受け止め、支援していく新たな体制を構築する必要があり、そのために地域における担い手の育成が求められる。

### 4. 今後の展開方針〔部としての判断〕

施策の方向性	[複数選択可] <input checked="" type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 内容の見直し (説明) 地域福祉計画をはじめ、高齢者、障害のある人、児童などの様々な計画を踏まえ、将来を見据えた新たな支援体制の構築に努める。					
行政と市民の役割分担	<input type="radio"/> I 行政の関与(役割)を拡大 <input type="radio"/> II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 <input checked="" type="radio"/> III 市民の関与(役割)を拡大 (説明) 地域福祉を推進していくためには、行政だけでなく、地域住民や社会福祉関係者等の関わりを拡大していくことが必要である。なお、拡大にあたっては、支援体制の構築が必要になってくる。					
施策を構成する事務事業の次年度の方向性	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	R3に向けた 投入資源の方向性
	1					
	2					
	3					
	4					
	5					
	計(単位:千円)			—	—	—
	<input checked="" type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載					
審議会等の第三者機関の評価(意見)	地域福祉計画推進委員会 「地域共生社会」を実現するには、地域住民が世代や分野を超えつながり、支え合うことができる仕掛けが必要である。					
部長の意見	「地域共生社会」の実現に向け、新たに策定した第4期地域福祉計画に基づき、社会福祉協議会や地域住民、関係団体等と連携して地域福祉を推進していく。					

**施策評価シート【別紙】施策を構成する事務事業の次年度の方向性**

施策名	地域福祉の推進			総合計画コード	241
部名	福祉部	主管課名	福祉相談課	主管課部課コード	040100
関連部課名	福祉部(障害福祉課、長寿はつらつ課)、こども・健康部(保育課)				

	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	R3に向けた 投入資源の方向性
		R1決算	R2決算見込			
	1 民生委員児童委員活動事業	31,404	28,385	5	5	現状のまま
	2 地域福祉計画推進事業	17,476	19,706	5	5	現状のまま
	3 社会福祉増進事業	110,500	130,528	5	5	現状のまま
	4 総合福祉センター管理運営事業	131,249	130,689	5	5	現状のまま
	5 災害救助事業	2,981	2,378	5	5	現状のまま
	6 災害援護資金貸付事業	1,164	776	5	5	現状のまま
	7 総合福祉センター施設改修事業	12,558	12,274	5	5	R2で休止・廃止・終了
	8 障害者生活支援事業	-	-	5	5	現状のまま
	9 保育園運営事業	-	-	5	5	現状のまま
	10 子ども・子育て支援事業	-	-	5	5	現状のまま
	11 民間社会福祉施設整備費補助事業	-	-	5	5	現状のまま
	12 放課後児童クラブ運営事業	-	-	5	5	現状のまま
	13 高齢者自立生活支援事業	-	-	5	5	現状のまま
	14					
	15					
	16					
	17					
	18					
	19					
	20					
	21					
	22					
	23					
	24					
	25					
	26					
	27					
	28					
	29					
	30					
	31					
	32					
	33					
	34					
	35					
	36					
	37					
	38					
	39					
	40					
	41					
	42					
	43					
	44					
	45					
	計 (単位:千円)	307,332	324,736	—	—	—

施策を  
構成する  
事務事業の  
次年度の  
方向性

施策評価シート(対象:R2年度実施施策)

R3年度(2021年度)評価

施策名	社会保障制度の運営			総合計画コード	242
部名	こども・健康部	主管課名	保険年金課	主管課部課コード	040500
関連部課名	福祉部(福祉相談課・生活援護課)、総務部(収納課)				

1. 施策概要

めざす目的成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>国民健康保険事業及び後期高齢者医療事業が安定して円滑に運営されることにより、全ての加入者が安心して質の高い医療を受けられる。また、国民年金加入者が制度を正しく理解することにより、適正な給付を受けられ健康的な生活を営むことができている。</li> <li>生活困窮者に対し、必要な制度や補助など適切なサービスを提供することで、生活の安定と自立の促進が図られる。</li> </ul>				
施策概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>保険給付や保険税賦課・徴収などの国民健康保険制度及び後期高齢者医療制度の円滑な運営に努めるとともに、特定健康診査等により、市民の健康増進を図る。また、国民年金制度の広報啓発活動や、日本年金機構などの専門機関と連携をとりながら加入促進や相談体制の充実を図る。</li> <li>生活困窮者などの相談に応じて、必要なサービスの情報を提供するとともに生活保護の適用や自立に向けた支援を行う。</li> </ul>				
個別計画関連計画	計画名称	第3期特定健康診査等実施計画	計画期間	H 30 年度	～ R 5 年度
		第2期国民健康保険保健事業実施計画		H 30 年度	～ R 5 年度
		第3期地域福祉計画		H 28 年度	～ R 5 年度

2. 実施結果

R2年度の施策の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>国保加入世帯数17,045世帯、被保険者数24,665人(R3.2月末現在)。国保税賦課件数30,245件(延べ)、資格異動処理12,533件、被保険者証送付世帯数25,700世帯を実施。レセプト点検審査を386,402枚(見込み)を実施し、7,001,953千円(見込み)を給付。特定健診受診者5,131人、人間ドック受診者964人に対する補助を実施した。</li> <li>後期高齢者被保険者数13,741人。納付書等発送枚数25,671件(延べ)、被保険者証送付15,034人を実施。健康診査受診者4,662人、人間ドック受診者505人に対する補助を実施した。(R3.2月末現在)</li> <li>国民年金被保険者総数16,342人、免除制度・保険料納付特例制度利用者6,041人。パンフレット印刷・配付を150部、社会保険労務士による予約による年金相談20回、49人を実施した。国民年金の諸届を3,686件受付し、進達を行った。(R3.2月末現在)</li> <li>生活保護の動向については、令和2年度当初、1,443世帯、1,803人に保護を保護を適用した。また、令和3年1月末時点で1,494世帯、1,847人に保護を適用し、生活保護の相談件数は、令和3年1月末時点で延べ599件であった。</li> <li>高齢者の困りごと相談や生活困窮などの福祉にかかわる相談を実施した。令和2年度延べ相談件数2,245件(R3.1月末現在)</li> </ul>					
R2年度の基本概念(コンセプト)の実施内容	安全・安心なまち	人間ドックの受診や、特定健診の検査項目については国の基準以上とするなど保健事業の充実にも努めた。				
	子育てがしやすいまち	子どもたちが健やかに育つために、出産育児一時金の支給や生活保護世帯の中・高校生の希望する世帯に対して、学習支援を行った。				
	つながりのある元気なまち	いつまでも住みなれた地域で暮らし続けるために、医療や経済的支援など社会保障制度の充実について努めた。				
	自然・環境に恵まれたまち					
総コスト(事業費+人件費)	単位:千円(決算)	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度(2019年度)	R2年度(2020年度)
		19,065,279	18,996,903	17,035,782	17,415,796	31,569,131

指標名(説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度(2019年度)	前期基本計画目標R2年度(2020年度)
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績	実績	実績	実績(見込)
① 特定健康診査受診率 (説明) 受診対象者(国保加入者で40歳～74歳)のうち、特定健康診査を受診した者の割合。	%	56	60	45	48	51
		41.8	42.5	42.4	44.8	40.0
② 生活保護受給世帯数 (説明) 年度末における生活保護受給世帯数。	世帯	1,420	1,470	1,520	1,570	1,620
		1,419	1,464	1,459	1,443	1,500

### 3. 施策の分析

達成度  (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) <input type="radio"/> D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点) <input type="radio"/> B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) <input type="radio"/> E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点) <input checked="" type="radio"/> C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点)
	(説明) ・国保及び後期高齢者医療の被保険者は、いつでも安心して質の高い医療を受けることができている。財政運営は高齢化の進展などにより厳しい状況だが、国、県、一般会計からの財政支援により安定して運営されている。 ・年金に関する市民の関心は高い。国民年金制度について適正に、かつ、迅速に諸手続きが行われ、市で実施している社労士を活用した年金相談等により制度に対する正しい理解が進んでいる。 ・相談者に対し内容を把握したうえ適切な助言を行い、必要な方には就労支援や学習支援を行うとともに、生活保護の適用などにより生活の安定を図ることができている。
必要性  (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある <input type="radio"/> D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある <input checked="" type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある <input type="radio"/> E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない
	(説明) ・一人当たりの医療費は高齢化や医療技術の高度化等により、今後も増加傾向にあることが予想される。また、健康で快適な生活を求めるニーズは今後も続くものと思われる。 ・国民年金制度に対する市民の関心は依然として高く、今後も制度の周知や年金相談等きめ細かな対応が必要である。 ・高齢社会により今後も相談件数は増加すると思われる。また、経済情勢によっては、生活保護受給世帯数についても増加する傾向であると思われる。
施策を進める上での問題点・課題	(説明) ・国民健康保険制度は財政健全化のため、県が財政運営の主体を担う役割に制度変更が行われた。健全な財政運営及び医療費適正化の観点からも疾病予防、健康増進などへの取り組みを充実させ、また、引き続き国などの動向を注視しながら事業運営を行う必要がある。 ・制度改正が繰り返される年金制度や後期高齢者医療制度は、わかりやすい表現を使用し、加入者の正確な理解に努める必要がある。 ・相談者の相談内容を的確に把握し、必要な支援につなげるよう、きめ細かく相談を継続していく必要がある。また、生活保護受給者へは、対応にあたる職員体制を充実していくことが不可欠である。 ・複雑化・多様化する相談にも適切に対応できるような体制を整える必要がある。

### 4. 今後の展開方針〔部としての判断〕

施策の方向性	〔複数選択可〕 <input type="checkbox"/> 重点化 <input checked="" type="checkbox"/> 内容の見直し					
	(説明) ・国民健康保険の広域化により、財政運営の責任主体が県となるとともに事務の効率化、標準化を進めることとなる。オンライン資格確認システムの導入などについては適切に対応していく。また、国民健康保険及び後期高齢者医療加入者に対する医療費の動向を注視し、計画的に事業に取り組むとともに医療費適正化の観点から特定健診・特定保健指導の一体的な運営など保健事業の充実を図っていく。 ・年金制度や年金記録など、市民への相談事業やPRについては、きめ細かく対応する必要がある。 ・生活保護法に基づいた適切な援護を行い、生活困窮者の生活の安定及び自立の助長を図るため、福祉の充実を図っていく。 ・職員が適切な支援を行えるよう、福祉相談アドバイザーによる相談を実施する。					
行政と市民の役割分担	<input type="radio"/> I 行政の関与(役割)を拡大 <input checked="" type="radio"/> II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 <input type="radio"/> III 市民の関与(役割)を拡大					
	(説明) ・国民健康保険及び後期高齢者医療加入者の健康づくりについては、特定健診・特定保健指導の実施のほか、市民と一体になって健康づくりの機運を高める必要がある。 ・年金事務に関しては、国及び年金機構と連携を密に図りながら市民の要望にこたえる必要がある。 ・生活保護法及び生活困窮者自立支援法に基づき、行政が施策を行っていく。					
施策を構成する事務事業の次年度の方向性	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	R3に向けた 投入資源の方向性
		R1決算	R2決算見込			
	1					
	2					
	3					
	4					
	5					
	計(単位:千円)			—	—	—
	<input checked="" type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載					
審議会等の第三者機関の評価(意見)	<b>【朝霞市国民健康保険運営協議会】</b> ・国民健康保険税については、口座振替の促進の啓発に努めるなど引き続き収納率の向上に努めていただきたい。 ・特定健診のさらなる受診率向上のため、他の部署と連携するなどの方策を検討していただきたい。					
部長の意見	・被保険者が、いつでも安心して必要な医療を受けることができるよう、国民健康保険及び後期高齢者医療の被保険者証の速やかな交付をするとともに、今後も迅速で正確な事務に取り組む。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、保健事業のひとつである、「こくほの総合健康診査(集団検診)」の実施ができず、被保険者の受診率が伸び悩んでしまった。次年度以降については、新型コロナウイルスの感染状況を見据えて、実施の方向で取り組み、受診率の向上に向けてPRに努める。 ・国保の広域化制度が開始されているが、市が担当する役割について、引き続き適正な事務を執行する。 ・1号被保険者の産前産後期間の保険料免除や年金生活者支援給付金制度など、年金関連の新しい制度が施行されていることから、制度に関する理解を深めるため、一層の啓発活動や相談事業に取り組む。 ・生活保護制度は、国からの法定受託事務であり、憲法第25条の規定により保障された国民の権利である。そのため、生活保護受給者の自立を促すとともに、低所得者が生活保護の受給に至らないように、生活困窮者へのきめ細かな相談・支援体制の充実に取り組む。					

**施策評価シート【別紙】施策を構成する事務事業の次年度の方向性**

施策名	社会保障制度の運営		総合計画コード	242	
部名	こども・健康部	主管課名	保険年金課	主管課部課コード	040500
関連部課名	福祉部(福祉相談課・生活援護課)、総務部(収納課)				

施策を構成する事務事業の次年度の方向性	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	R3に向けた 投入資源の方向性
		R1決算	R2決算見込			
	1 国民健康保険税徴収事業	69,813	69,813	5	5	現状のまま
	2 国民健康保険運営協議会運営事業	3,431	3,541	5	5	現状のまま
	3 国民健康保険診療報酬明細書点検事業	34,155	41,409	4	4	現状のまま
	4 国民健康保険医療費給付事業	7,038,646	6,998,756	5	5	現状のまま
	5 出産育児一時金及び葬祭費支給事業	55,344	61,030	4	4	現状のまま
	6 国民健康保険保健衛生普及事業	150,960	151,353	5	5	現状のまま
	7 国民健康保険税賦課事業	34,306	36,643	5	5	現状のまま
	8 国民健康保険被保険者の資格管理事業	75,612	91,144	5	5	現状のまま
	9 国民健康保険事業費納付事業	3,679,793	3,318,819	5	5	現状のまま
	10 埼玉県後期高齢者医療広域連合負担事業	918,864	957,778	4	4	現状のまま
	11 後期高齢者医療健康診査等事業	93,306	100,622	5	5	現状のまま
	12 後期高齢者医療保険料徴収事業	13,805	16,239	5	5	現状のまま
	13 後期高齢者医療広域連合納付事業	1,278,555	1,370,437	4	4	現状のまま
	14 後期高齢者医療保険料還付事業	5,315	7,191	4	4	現状のまま
	15 後期高齢者医療運営事業	17,284	15,109	4	4	現状のまま
	16 国民年金事業	24,164	24,654	3	3	現状のまま
	17 生活保護事業	3,720,764	3,639,788	3	3	現状のまま
	18 生活保護総務事務事業	175,482	185,917	5	5	現状のまま
	19 福祉相談事業	26,197	58,760	5	5	現状のまま
	20 特別定額給付金給付事業	0	14,411,076	—	—	R2で休止・廃止・終了
	21 臨時特別定額給付金給付事業	0	9,052	—	—	R2で休止・廃止・終了
	22					
	23					
	24					
	25					
	26					
	27					
	28					
	29					
	30					
	31					
	32					
	33					
	34					
	35					
	36					
	37					
	38					
	39					
	40					
	41					
	42					
	43					
	44					
	45					
	計 (単位:千円)	17,415,796	31,569,131	—	—	—

施策評価シート(対象:R2年度実施施策)

R3年度(2021年度)評価

施策名	健康づくりの支援			総合計画コード	251
部名	こども・健康部	主管課名	健康づくり課	主管課部課コード	040400
関連部課名					

1. 施策概要

めざす目的成果	すべての市民は自身が健康であるよう、健康の重要性に対する意識を高く持ち、教育・保健・医療・福祉の各機関は連携して市民の健康づくりの支援を行っている。				
施策概要	健康づくり活動を促進し、健康づくりの体制を整備する。				
個別計画 関連計画	計画名称	あさか健康プラン21(第2次)	計画期間	H 26 年度 ~	H 34 年度
				H 年度 ~	H 年度
				H 年度 ~	H 年度

2. 実施結果

R2年度の 施策の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活習慣病予防その他健康教育に関する教育・知識の普及を行い、自らが自主的に健康づくりに取り組めるよう意識付けを行い健康寿命の延伸につなげるために、中央公民館とコラボしたさわやか健康教室を2回、ヘルスアップチャレンジ教室を2日間開催した。</li> <li>あさか健康プラン21では、健康あさか普及員とともに「あさか健康ラウンジ」をはじめとする各種活動を実施し、令和3年1月末の登録者数は405人である。</li> <li>市民の健康志向が高まることを目的に、健康づくり情報「へるす☆アップ」を年4回広報あさかに掲載した。</li> <li>保健センターガイドは74,000枚作成し全戸配布し、保健事業の周知を行った。</li> <li>平成29年度から健康マイレージ事業を開始し、令和3年1月末の参加者数は1,827人である。</li> <li>各種がん検診や歯科健診については、重要な機会と捉え、感染症対策を講じながら実施した。</li> </ul>					
R2年度の 基本概念(コンセプト)の実施内容	安全・安心なまち	あさか健康プラン21における推進事業や健康まつり等により、健康づくりの活動を促進した。				
	子育てがしやすいまち	子供向けスポーツ教室を行い、健康増進センターの利用促進を行った。保健センターガイドを全戸配布し、乳幼児健診等について周知を行った。				
	つながりのある元気なまち	健康あさか普及員による地域とのつながりを促進した。				
	自然・環境に恵まれたまち	健康マイレージ事業により、自然の中でできる健康づくりとしてウォーキングの取組を促進した。				
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度(2019年度)	R2年度(2020年度)
		256,941	214,541	217,299	210,693	218,267

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度 (2019年度)	前期基本計画目標 R2年度(2020年度)
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績	実績	実績	実績(見込)
① 「健康あさか普及員」の人数 (説明) 行政と共に市民の健康づくりを推進していくボランティアである「健康あさか普及員」の登録人数	人	240	240	320	340	350
		243	324	369	397	405
② 健康まつり入場者数 (説明) 健康まつりの入場者数	人	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300
		620	620	769	中止	中止

### 3. 施策の分析

達成度  (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) <input type="radio"/> D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点) <input type="radio"/> B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) <input type="radio"/> E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点) <input checked="" type="radio"/> C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点) (説明) 感染症対策のため、定員制限を行ったが、参加者も一定程度参加があり、健康への意識向上を図ることができた。また、「健康あさか普及員」の活動では、ASAKA健康ラウンジやASAKA健康ミーティングを実施し、普及員の登録者数も確実に増加している。 健康マイレージ事業では、抽選会を実施し、多くの参加者があつた。
必要性  (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある <input type="radio"/> D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある <input checked="" type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある <input type="radio"/> E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない (説明) 感染症が拡大し、予防のために生活様式が変わり、健康に関する様々な影響が懸念されている。その対処方法として、健康への関心が、多くの人々に深まっていると考える。 今後のニーズは、報道をはじめ、様々なところで情報発信されると考えますので、その把握に努め、対応を検討したい。
施策を進める上での問題点・課題	(説明) 市民に健康づくりの輪を広げていくためには、「健康あさか普及員」との協力が不可欠であり、普及員のモチベーションアップと情報発信力やその機会をどのように提供していくかが、課題である。

### 4. 今後の展開方針〔部としての判断〕

施策の方向性	[複数選択可] <input checked="" type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 内容の見直し (説明) 健康あさか普及員とともに、健康づくりの意識向上の輪が市民に広がるよう、事業展開が必要である。					
行政と市民の役割分担	<input type="radio"/> I 行政の関与(役割)を拡大 <input type="radio"/> II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 <input checked="" type="radio"/> III 市民の関与(役割)を拡大 (説明) 現在と同様に、行政は計画の進捗管理、推進事業及び健康まつりを含む各種保健事業の運営管理を行い、市民は行政との協働、さらなる参画を期待する。					
施策を構成する事務事業の次年度の方向性	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	R3に向けた 投入資源の方向性
	1 保健衛生総務事務事業	7,720	7,892	3	3	現状のまま
	2 あさか健康プラン21推進事業	21,252	18,629	4	4	現状のまま
	3 健康増進センター管理運営事業	176,226	191,746	3	3	現状のまま
	4 健康増進センター施設改修事業	5,495	0	4	4	現状のまま
	5					
	計(単位:千円)	210,693	218,267	—	—	—
	<input type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載					
審議会等の第三者機関の評価(意見)	【健康づくり推進協議会】 健康まつりについては、同日で他のイベントと重なっているので、日程や会場などの検討が必要である。健康増進センターで行うのであれば、隣の施設の「ふれあい祭り」とうまく連携できるといい。健康マイレージ事業は国保と一緒に宣伝できるといい。					
部長の意見	感染症拡大防止のために、事業展開に影響があり、市民の健康志向への浸透度合いが期待できない面もあったことから、今後も、継続的に創意工夫しながら事業を展開して必要がある。					

施策評価シート(対象:R2年度実施施策)

R3年度(2021年度)評価

施策名	保健サービスの充実			総合計画コード	252
部名	こども・健康部	主管課名	健康づくり課	主管課部課コード	040400
関連部課名					

1. 施策概要

めざす目的成果	すべての市民が自分の健康についてよく理解、疾病の早期発見や予防を心がけている。				
施策概要	母子保健、健康増進、歯科保健、精神保健、予防接種及び健康危機管理等の充実を図る。				
個別計画 関連計画	計画名称	新型インフルエンザ等対策行動計画	計画期間	H 26 年度 ~	H 年度
		新型インフルエンザ等業務継続計画		H 28 年度 ~	H 年度
				H 年度 ~	H 年度

2. 実施結果

R2年度の 施策の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予防接種では、県の補助金を活用して、高齢者に対して、インフルエンザ予防接種を一定期間無料で接種できる事業を実施した。</li> <li>・母子保健では、新生児訪問、乳幼児健診、母子健康教育のほか各種相談事業を実施した。「子育て世代包括支援センター」では、母子手帳において、全妊婦に面接し交付することにより、悩み事の相談にのることや専門家の支援が必要な妊婦には、早期介入による支援を行った。</li> <li>・健康増進では、30代のヘルスチェック及び生活保護者の健康診査や各種がん検診等を実施した。</li> <li>・歯科保健では、健全な歯・口腔機能を維持するため、成人歯科健診、親子歯科健診のなどを実施した。</li> <li>・精神保健事業では、ゲートキーパー研修を実施し、コロナ禍で悩む人たちへの対応を学んだ。</li> <li>・新型コロナウイルスワクチン接種体制の整備を実施した。</li> </ul>					
R2年度の 基本概念(コンセプト) の実施内容	安全・安心なまち	各種健診や保健事業、予防接種、精神保健、健康危機対策事業を実施した。				
	子育てがしやすいまち	専門職による母子健康手帳の交付や、妊婦健診、乳幼児健診等の各種母子保健事業等を実施した。				
	つながりのある元気なまち	各種健康増進事業による健康づくりの取組の充実を図った。				
	自然・環境に恵まれたまち	感染症予防のための各種啓発を実施した。				
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度(2019年度)	R2年度(2020年度)
		889,343	911,940	915,991	920,849	1,170,164

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度 (2019年度)	前期基本計画目標 R2年度(2020年度)
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績	実績	実績	実績(見込)
① 女性のがん(子宮頸がん・乳がん)検診受診率 (説明) 子宮頸がん・乳がん検診の受診率	%	子宮頸がん 30 乳がん 30	子宮頸がん 30 乳がん 30	子宮頸がん 30 乳がん 30	子宮頸がん 35 乳がん 35	子宮頸がん 40 乳がん 40
		子宮頸がん 16.5 乳がん 18.4	子宮頸がん 15.6 乳がん 19.0	子宮頸がん 7.4 乳がん 9.0	子宮頸がん 8.0 乳がん 8.0	子宮頸がん 8.0 乳がん 9.0
② 乳幼児健康診査の受診率 (説明) 4か月児健康診査の対象児数に対する受診した児の割合	%	95	95	95	95	95
		98.3	97.0	97.0	97.0	97.0

### 3. 施策の分析

<p>達成度  (目標の達成状況はどうか)</p>	<p><input type="radio"/> A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) <input type="radio"/> D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点)  <input type="radio"/> B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) <input type="radio"/> E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点)  <input checked="" type="radio"/> C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点)</p> <p>(説明)          感染症への懸念から、医療機関でのがん検診の受診者が減少した。          乳幼児健診については、こどもの健やかな発育を確認するための重要な機会であることから、コロナ禍にあっても、健診の受診者の減少は見られない。          産後ケア事業では、助産師が自宅を訪問し、心身のケアや育児サポートを実施し支援が図られている。</p>
<p>必要性  (ニーズは今後どう変化するか)</p>	<p><input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある <input type="radio"/> D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある  <input checked="" type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある <input type="radio"/> E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある  <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない</p> <p>(説明)          複雑な時代背景で核家族のため、妊婦に対しては、妊娠前から切れ目のない子育て支援が重要であり、子育て世代包括支援センターの役割は大きくなってきている。がん検診についても、患者の増加や医療技術の進歩などの背景にあつて、ますます、市民の健康への意識向上が見込まれると考える。          感染症対策については、重要な事業であり、国の方向性に従いながら、事業展開が必要である。</p>
<p>施策を進める上での問題点・課題</p>	<p>(説明)          妊婦を取り巻く環境は、年々、複雑化し対応が難しいケースが見られる。困難な環境に対し、多角的に対応する必要があるため、出来る限り、関連各課と連携や情報共有することが課題である。          がん検診や乳幼児健診については、その重要性を周知し、市民へ浸透させることを進めることに創意工夫が必要である。          感染症防止は多くの方の協力が必要であり、その体制をどう作るかに課題が多くある。</p>

### 4. 今後の展開方針〔部としての判断〕

<p>施策の方向性</p>	<p>〔複数選択可〕 <input checked="" type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 内容の見直し</p>																																													
<p>行政と市民の役割分担</p>	<p><input type="radio"/> I 行政の関与(役割)を拡大 <input checked="" type="radio"/> II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 <input type="radio"/> III 市民の関与(役割)を拡大</p> <p>(説明)          行政は、市民の健康づくりのために十分な保健サービスを提供し、多くの市民のがサービスを楽しむことができる仕組みづくりを担う。市民においては、自身の健康志向を高め、周りの方々への健康志向の輪が広がる影響力を持ってほしい。</p>																																													
<p>施策を構成する事務事業の次年度の方向性</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">事務事業名</th> <th colspan="2">総コスト(事業費+人件費)</th> <th rowspan="2">有効性 貢献度</th> <th rowspan="2">優先性 緊急性</th> <th rowspan="2">R3に向けた 投入資源の方向性</th> </tr> <tr> <th>R1決算</th> <th>R2決算見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>計(単位:千円)</td> <td></td> <td></td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	R3に向けた 投入資源の方向性	R1決算	R2決算見込	1						2						3						4						5						計(単位:千円)			—	—	—	<p><input checked="" type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載</p>
事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性				R3に向けた 投入資源の方向性																																						
	R1決算	R2決算見込																																												
1																																														
2																																														
3																																														
4																																														
5																																														
計(単位:千円)			—	—	—																																									
<p>審議会等の第三者機関の評価(意見)</p>	<p>【健康づくり推進協議会】          健康まつりに多くの人が参加できる工夫をお願いします。</p>																																													
<p>部長の意見</p>	<p>子育て世代包括支援センターにおいては、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援体制を進めているが、関係部署との連携をとりながら、より充実した支援ができる体制を積み重ねていくことが重要である。          また、市民の健康増進では、各種健診が大切になっていることから、受診率の向上に今後も努力を続けていくことが必要である。          予防接種にあつては、感染症防止対策に多くの協力者とともに、事業を進めながら、国の動向を注視することが大切である。</p>																																													

**施策評価シート【別紙】施策を構成する事務事業の次年度の方向性**

施策名	保健サービスの充実		総合計画コード	252	
部名	こども・健康部	主管課名	健康づくり課	主管課部課コード	040400
関連部課名					

事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	R3に向けた 投入資源の方向性
	R1決算	R2決算見込			
1 母子健康教育事業	11,529	7,749	3	3	現状のまま
2 妊婦一般健康診査等事業	126,749	130,656	4	4	現状のまま
3 乳幼児健康診査事業	36,488	36,099	3	3	現状のまま
4 母子訪問指導事業	23,351	21,659	3	3	現状のまま
5 未熟児養育医療給付事業	15,454	12,943	3	3	現状のまま
6 妊娠・出産包括支援事業	19,538	18,574	4	4	拡大
7 育み支援パーチャルセンター事業(幼稚園巡回相談事業)	-	-	4	4	現状のまま
8 健康教育事業	3,648	3,311	3	3	現状のまま
9 がん検診事業	218,648	209,253	4	3	現状のまま
10 成人健康診査事業	4,981	4,294	4	3	現状のまま
11 骨粗しょう症予防事業	8,113	6,295	3	3	現状のまま
12 あさか健康プラン21推進事業	-	-	4	4	現状のまま
13 歯科保健事業	6,411	6,629	3	3	現状のまま
14 精神保健事業	7,148	4,017	3	3	拡大
15 予防接種事業	433,350	537,907	4	4	拡大
16 健康危機対策事業	5,441	30,377	4	4	拡大
17 新型コロナウイルスワクチン接種事業	0	56,315	4	4	拡大
18 特別出産給付金支給事業		84,086	4	4	R2で休止・廃止・終了
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
39					
40					
41					
42					
43					
44					
45					
計 (単位:千円)	920,849	1,170,164	—	—	—

施策を  
構成する  
事務事業の  
次年度の  
方向性

施策評価シート(対象:R2年度実施施策)

R3年度(2021年度)評価

施策名	医療体制の充実			総合計画コード	253
部名	こども・健康部	主管課名	健康づくり課	主管課部課コード	040400
関連部課名					

1. 施策概要

めざす目的成果	すべての市民が在宅医療、かかりつけ医、かかりつけ薬局などに対する意識が高く、身近な医療から高度な医療まで地域医療が充実している。					
施策概要	在宅当番医制、小児救急医療支援事業、病院群輪番制などの充実を図るとともに、健康に関する正しい知識を普及啓発していく。					
個別計画 関連計画	計画名称	計画期間	H	年度	~ H	年度
			H	年度	~ H	年度
			H	年度	~ H	年度

2. 実施結果

R2年度の 施策の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>在宅当番医制は、日曜及び祝日の昼間(午前10時~午後4時)、朝霞地区4市が共同で朝霞地区医師会に運営を委託し、初期救急医療を実施した。</li> <li>小児救急医療支援事業は、入院が必要な重度の小児救急患者を平日及び日曜・祝日の夜間(午後6時~午前8時)、日曜及び祝日の昼間(午前8時~午後6時)の二次救急医療の運営に対して補助金を交付した。</li> <li>病院群輪番制は、朝霞地区4市の救急医療を確保するため、朝霞地区の救急病院9か所の輪番制により、平日及び日曜・祝日の夜間(午後6時~午前8時)、日曜及び祝日の昼間(午前8時~午後6時)の二次救急医療施設の運営に対して補助金を交付した。</li> <li>朝霞地区4市及び埼玉県との協定に基づき、小児救急医療寄附講座支援事業及び周産期医療寄附講座支援事業は、慶應大学に寄附講座を設置し補助金を交付した。</li> <li>早期不妊検査・不育症検査助成費補助事業及び早期不妊治療助成費補助事業を実施した。</li> </ul>					
R2年度の 基本概念(コンセプト)の実施内容	安全・安心なまち	かかりつけ医等の普及啓発を行うと共に、「いつでも、どこでも、誰でも」適切な医療を受けられるよう地域医療や救急医療体制の整備に努めた。				
	子育てがしやすいまち	かかりつけ医等の普及啓発を行うと共に、「いつでも、どこでも、誰でも」適切な医療を受けられるよう地域医療や救急医療体制の整備に努めた。				
	つながりのある元気なまち	かかりつけ医等の普及啓発を行うと共に、「いつでも、どこでも、誰でも」適切な医療を受けられるよう地域医療や救急医療体制の整備に努めた。				
	自然・環境に恵まれたまち					
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度(2019年度)	R2年度(2020年度)
		38,631	45,102	48,683	49,792	96,114

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度 (2019年度)	前期基本計画目標 R2年度(2020年度)
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績	実績	実績	実績(見込)
① 乳幼児のかかりつけ医普及率 (説明) 乳幼児健診の受診児で、かかりつけ医を持っている割合	%	100	100	100	100	100
		84.3	84.4	85.3	86.0	76.6
② (説明)						

### 3. 施策の分析

<p>達成度</p> <p>(目標の達成状況はどうか)</p>	<p><input type="radio"/> A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) <input type="radio"/> D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点)</p> <p><input type="radio"/> B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) <input type="radio"/> E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点)</p> <p><input checked="" type="radio"/> C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点)</p> <p>(説明)</p> <p>在宅当番医制は、朝霞地区4市が共同で朝霞地区医師会に運営を委託し、計画どおり初期救急医療を実施した。</p> <p>小児救急医療支援事業は、入院が必要な重度の小児救急患者のために、計画どおり二次救急医療を実施した。</p> <p>病院群輪番制は、朝霞地区4市の救急医療を確保するため、朝霞地区の救急病院9か所の輪番制により、二次救急医療施設の運営を実施した。</p>
<p>必要性</p> <p>(ニーズは今後どう変化するか)</p>	<p><input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある <input type="radio"/> D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある</p> <p><input checked="" type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある <input type="radio"/> E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある</p> <p><input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない</p> <p>(説明)</p> <p>医療機関が休診となる、平日夜間や日曜・祝日における救急医療体制を整備することは、市民の医療への安心、安全を守る上で必要不可欠である。在宅当番医制や病院群輪番制、小児救急医療の整備は100%達成したが、これらの体制を維持するためには、市民それぞれが救急医療に関して適正な受診行動が重要であり、そのためには「かかりつけ医・かかりつけ薬局」をもつような啓発が必要である。</p>
<p>施策を進める上での問題点・課題</p>	<p>(説明)</p> <p>救急医療体制については、市民の生活形態が多様化していることに対応していくことが課題である。</p> <p>また、市民それぞれが救急医療に関して適正な受診行動が重要であり、そのためには「かかりつけ医・かかりつけ薬局」をもつような啓発にも課題がある。</p>

### 4. 今後の展開方針〔部としての判断〕

<p>施策の方向性</p>	<p>〔複数選択可〕 <input checked="" type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 内容の見直し</p> <p>(説明)</p> <p>「いつでも、誰でも、どこでも」適切な医療を受けられることが必要であることから、現在の医療体制を維持するとともに、救急医療体制について更に充実させていく。また、医療に関する相談窓口の周知等を含め、市民が適正な受診行動がとれるような啓発も継続していく。</p>																																													
<p>行政と市民の役割分担</p>	<p><input type="radio"/> I 行政の関与(役割)を拡大 <input checked="" type="radio"/> II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 <input type="radio"/> III 市民の関与(役割)を拡大</p> <p>(説明)</p> <p>市は医療に関して必要な環境を整えることを役割とし、市民には適正な受診行動を期待する。</p>																																													
<p>施策を構成する事務事業の次年度の方向性</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">事務事業名</th> <th colspan="2">総コスト(事業費+人件費)</th> <th rowspan="2">有効性 貢献度</th> <th rowspan="2">優先性 緊急性</th> <th rowspan="2">R3に向けた 投入資源の方向性</th> </tr> <tr> <th>R1決算</th> <th>R2決算見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 献血者確保推進事業</td> <td>2,116</td> <td>2,112</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>現状のまま</td> </tr> <tr> <td>2 保健センター管理事業</td> <td>13,268</td> <td>13,529</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>現状のまま</td> </tr> <tr> <td>3 地域医療確保事業</td> <td>34,408</td> <td>80,473</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>現状のまま</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計(単位:千円)</td> <td>49,792</td> <td>96,114</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	R3に向けた 投入資源の方向性	R1決算	R2決算見込	1 献血者確保推進事業	2,116	2,112	3	3	現状のまま	2 保健センター管理事業	13,268	13,529	3	3	現状のまま	3 地域医療確保事業	34,408	80,473	4	4	現状のまま	4						5						計(単位:千円)	49,792	96,114	—	—	—	<p><input type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載</p>
事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性				R3に向けた 投入資源の方向性																																						
	R1決算	R2決算見込																																												
1 献血者確保推進事業	2,116	2,112	3	3	現状のまま																																									
2 保健センター管理事業	13,268	13,529	3	3	現状のまま																																									
3 地域医療確保事業	34,408	80,473	4	4	現状のまま																																									
4																																														
5																																														
計(単位:千円)	49,792	96,114	—	—	—																																									
<p>審議会等の第三者機関の評価(意見)</p>																																														
<p>部長の意見</p>	<p>医療機関の体制整備においては、寄附講座を計画的に活用して、体制整備を埼玉県とともに実施する必要がある。また、すべての市民が在宅医療、かかりつけ医、かかりつけ薬局などに対する意識向上を引き続き図っていくことが大切である。</p>																																													